

四国縦貫自動車道建設に伴う 埋蔵文化財発掘調査報告

21

試掘調査総括

下突出遺跡

滝ノ宮遺跡

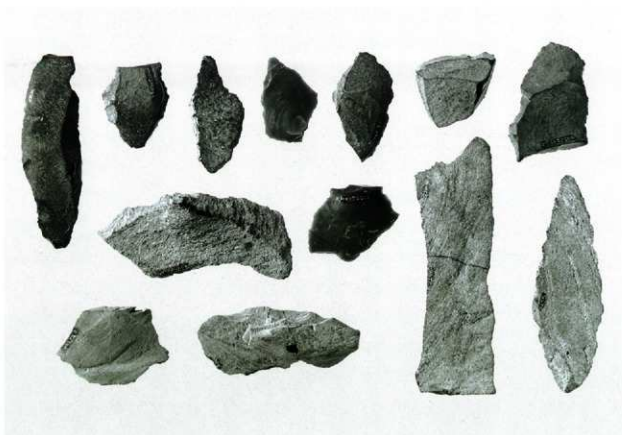
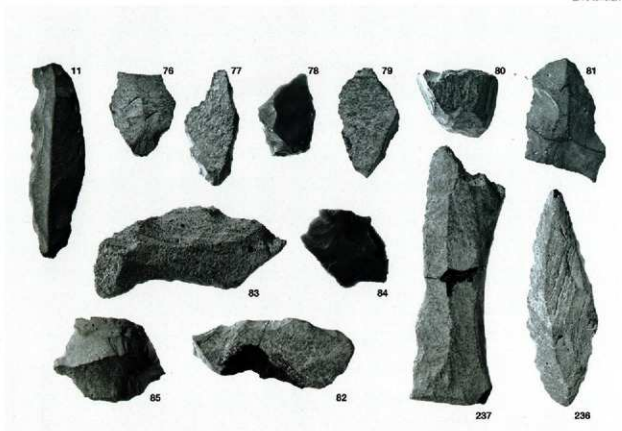
佐城遺跡(Ⅱ)

鶴射遺跡

原遺跡(Ⅱ)

2001

徳島県教育委員会
財団法人 徳島県埋蔵文化財センター
日本道路公団



滝ノ宮・佐城（Ⅱ）・鶴射遺跡 出土旧石器 1/1

序 文

本書は四国縦貫自動車道建設（脇～美馬間）に伴い1993年から1995年にわたって実施した本調査5遺跡の調査報告と本調査に至らなかった4遺跡の試掘調査結果を一冊にまとめたものです。

本県で初めて旧石器時代の細石刃核が出土した佐城遺跡(Ⅱ)をはじめ、吉野川中流に位置する、美馬町から脇町にかけての扇状地上の遺跡群の一端を取録しました。それぞれの地域の歴史を解明する上での基礎資料となることと思われます。

本書が考古学の調査研究の資料として利用され、文化財保護の一助となれば幸いです。

なお、発掘調査・報告書の作成にあたり、日本道路公団及び関係機関ならびに地元の皆様にご多大のご援助、ご協力を頂きました。ここに深く感謝してお礼を申し上げます。

2002年3月

財団法人 徳島県埋蔵文化財センター

理事長 松 村 通 治

例 言

- 1 本書は1993年度から1995年度にかけて調査を実施した四国縦貫自動車道建設に伴う埋蔵文化財試掘調査および発掘調査報告書である。
- 2 本書には、下突出遺跡・滝ノ宮遺跡・佐城遺跡(Ⅱ)・鶴射遺跡・原遺跡(Ⅱ)の調査報告及び、池ノ浦遺跡・井口遺跡・佐城遺跡(Ⅰ)・原遺跡(Ⅰ)の試掘調査報告を収録した。
- 3 発掘調査は日本道路公団高松建設局から徳島県が委託を受け、徳島県からの委託により財団法人徳島県埋蔵文化財センターが実施した。
- 4 遺構の表示は徳島県埋蔵文化財センターが定める発掘調査基準による略記号を用いた。
凡例
SA 掘立柱建物 SK 土坑 SO 炭窯 SP 柱穴
各遺跡の遺構配置図の縮尺はグリッド1辺が5mである。
- 5 第1図「掲載遺跡と周辺の遺跡」は国土地理院発行の1:50,000地形図「脇町」を使用した。
- 6 本書で用いた土層および遺物の胎土の色調は、小山正忠・竹原秀雄編「新版標準土色帳」によった。
- 7 本書で用いた陶磁器類の釉薬及び玉の色調は、細野尚志編「標準色彩図表A」によった。
- 8 方位は国土座標第Ⅳ座標系の北、高さは東京湾標準潮位(T.P.)を表す。
- 9 調査に当たっては次の機関の指導・協力を得た。
日本道路公団高松建設局 同脇町工事事務所 徳島県土木部縦貫道推進局 同中央事務所 脇町 美馬町
- 10 ガラス製品に関する鑑定・Vの執筆は徳島県埋蔵文化財センター植地岳彦が行い、石製品の石材鑑定を藍住東中学校橋本寿夫氏にお願いした。I-1の執筆は貞野保仁が、旧石器に関する記述及び実測は氏家敏之が、その他の遺物実測及びトレース作業は、折野悦子、高石里恵、長尾千春、東中美智子、和田悦子が行った。遺構写真撮影はそれぞれの調査担当者が、遺物写真撮影、上記以外の執筆及び全体の編集は、大北和美、日下正剛、久保聡美朗、栗林誠治、小泉信司、幸泉満夫、横田温生の協力を得て金森映人が行った。

本文目次

I 調査に至る経緯	
1 調査に至る経緯	3
II 遺跡の立地と環境	
1 地理的環境	9
2 歴史的環境	9
III 試掘調査	
1 池ノ浦遺跡	17
2 井口遺跡	21
3 佐城遺跡(I)	25
4 原遺跡(I)	29
IV 調査成果	
1 下突出遺跡	35
(1) 調査の経過	37
① 遺跡の位置	37
② 基本層序	37
③ 発掘調査の方法	37
(2) 遺構と遺物	37
(3) まとめ	38
2 滝ノ宮遺跡	43
(1) 調査の経過	45
① 遺跡の位置	45
② 基本層序	45
③ 発掘調査の方法	45
(2) 遺構と遺物	45
(3) まとめ	46
3 佐城遺跡(II)	53
(1) 調査の経過	55
① 遺跡の位置	55
② 基本層序	55
③ 発掘調査の方法	55
(2) 遺構と遺物	55
(3) まとめ	57
4 鶴射遺跡	83
(1) 調査の経過	85

① 遺跡の位置	85
② 基本層序	85
③ 発掘調査の方法	85
(2) 遺構と遺物	85
(3) まとめ	86
5 原遺跡(Ⅱ)	95
(1) 調査の経過	97
① 遺跡の位置	97
② 基本層序	97
③ 発掘調査の方法	97
(2) 遺構と遺物	97
(3) まとめ	99
V 考察	
佐城遺跡(Ⅰ)、原遺跡(Ⅱ)出土玉状製品の材質について	113
付 図版33・34立体視解説	116

挿 図 目 次

第1図	掲載遺跡と周辺の遺跡	12	第39図	佐城遺跡(Ⅱ)包含層出土遺物実測図⑨	69
第2図	池ノ浦遺跡調査地点	17	第40図	佐城遺跡(Ⅱ)包含層出土遺物実測図⑩	70
第3図	井口遺跡調査地点	21	第41図	佐城遺跡(Ⅱ)包含層出土遺物実測図⑪	71
第4図	佐城遺跡(Ⅰ)調査地点	25	第42図	佐城遺跡(Ⅱ)包含層出土遺物実測図⑫	72
第5図	原遺跡(Ⅰ)調査地点	29	第43図	佐城遺跡(Ⅱ)包含層出土遺物実測図⑬	73
第6図	下突出遺跡調査地点	35	第44図	佐城遺跡(Ⅱ)包含層出土遺物実測図⑭	74
第7図	下突出遺跡遺構配置図	36	第45図	鶴射遺跡調査地点	83
第8図	下突出遺跡SK1001・SK1002遺構図	39	第46図	鶴射遺跡遺構配置図	84
第9図	下突出遺跡SP1001～SP1005遺構図	40	第47図	鶴射遺跡SA1001遺構図	87
第10図	下突出遺跡包含層出土遺物実測図	40	第48図	鶴射遺跡SO1001遺構図	88
第11図	滝ノ宮遺跡調査地点	43	第49図	鶴射遺跡SO1001出土遺物実測図	88
第12図	滝ノ宮遺跡遺構配置図	44	第50図	鶴射遺跡SP1133遺構図	88
第13図	滝ノ宮遺跡SO1002遺構図・出土遺物実測図	47	第51図	鶴射遺跡SP1133出土遺物実測図	88
第14図	滝ノ宮遺跡SK1002遺構図・出土遺物実測図	48	第52図	鶴射遺跡SA1001(EP6・EP6)遺構図 出土遺物実測図	89
第15図	滝ノ宮遺跡SK1004遺構図・出土遺物実測図	48	第53図	鶴射遺跡SK1004遺構図・出土遺物実測図	89
第16図	滝ノ宮遺跡SP1010遺構図・出土遺物実測図	48	第54図	鶴射遺跡SO1002遺構図・出土遺物実測図	90
第17図	滝ノ宮遺跡SP1060遺構図	48	第55図	鶴射遺跡SP1141遺構図・出土遺物実測図	90
第18図	滝ノ宮遺跡SP1060出土遺物実測図	48	第56図	鶴射遺跡包含層出土遺物実測図	90
第19図	滝ノ宮遺跡包含層出土遺物実測図(1)	49	第57図	原遺跡(Ⅱ)調査地点	95
第20図	滝ノ宮遺跡包含層出土遺物実測図(2)	50	第58図	原遺跡(Ⅱ)遺構配置図	96
第21図	佐城遺跡(Ⅱ)調査地点	53	第59図	原遺跡(Ⅱ)SK1002遺構図・出土遺物実測図	100
第22図	佐城遺跡(Ⅱ)遺構配置図	54	第60図	原遺跡(Ⅱ)SK1010遺構図・出土遺物実測図	100
第23図	佐城遺跡(Ⅱ)SK1002遺構図・出土遺物実測図	58	第61図	原遺跡(Ⅱ)SP1003遺構図・出土遺物実測図	101
第24図	佐城遺跡(Ⅱ)SK1001遺構図・出土遺物実測図	58	第62図	原遺跡(Ⅱ)SP1016遺構図・出土遺物実測図	101
第25図	佐城遺跡(Ⅱ)SK1003遺構図・出土遺物実測図	58	第63図	原遺跡(Ⅱ)SP1022遺構図・出土遺物実測図	101
第26図	佐城遺跡(Ⅱ)SK1004遺構図・出土遺物実測図	59	第64図	原遺跡(Ⅱ)SP1023遺構図・出土遺物実測図	101
第27図	佐城遺跡(Ⅱ)SK1007遺構図・出土遺物実測図	59	第65図	原遺跡(Ⅱ)SP1046遺構図・出土遺物実測図	102
第28図	佐城遺跡(Ⅱ)SK1009遺構図・出土遺物実測図	60	第66図	原遺跡(Ⅱ)SP1049遺構図・出土遺物実測図	102
第29図	佐城遺跡(Ⅱ)SP1001遺構図・出土遺物実測図	60	第67図	原遺跡(Ⅱ)SP1056遺構図・出土遺物実測図	102
第30図	佐城遺跡(Ⅰ)包含層出土遺物実測図	60	第68図	原遺跡(Ⅱ)SP1058遺構図・出土遺物実測図	102
第31図	佐城遺跡(Ⅱ)包含層出土遺物実測図(1)	61	第69図	原遺跡(Ⅱ)SP1088遺構図・出土遺物実測図	103
第32図	佐城遺跡(Ⅱ)包含層出土遺物実測図(2)	62	第70図	原遺跡(Ⅱ)SP1090遺構図・出土遺物実測図	103
第33図	佐城遺跡(Ⅱ)包含層出土遺物実測図(3)	63	第71図	原遺跡(Ⅱ)SP1138遺構図・出土遺物実測図	103
第34図	佐城遺跡(Ⅱ)包含層出土遺物実測図(4)	64	第72図	原遺跡(Ⅱ)SP1159遺構図・出土遺物実測図	103
第35図	佐城遺跡(Ⅱ)包含層出土遺物実測図(5)	65	第73図	原遺跡(Ⅱ)包含層出土遺物(1)	104
第36図	佐城遺跡(Ⅱ)包含層出土遺物実測図(6)	66	第74図	原遺跡(Ⅱ)包含層出土遺物(2)	105
第37図	佐城遺跡(Ⅱ)包含層出土遺物実測図(7)	67	第75図	原遺跡(Ⅱ)包含層出土遺物(3)	106
第38図	佐城遺跡(Ⅱ)包含層出土遺物実測図(8)	68			

表 目 次

第1表	下突出遺跡出土石器觀察表	40	佐城遺跡(Ⅱ)出土石器・玉觀察表(3)	79	
第2表	滝ノ宮遺跡出土石器觀察表	50	第6表	鶴射遺跡出土石器觀察表	91
第3表	滝ノ宮遺跡出土石器觀察表	50	第7表	鶴射遺跡出土石器觀察表	91
第4表	佐城遺跡(Ⅱ)出土石器觀察表(1)	75	第8表	原遺跡(Ⅱ)出土石器觀察表(1)	107
	佐城遺跡(Ⅱ)出土石器觀察表(2)	76		原遺跡(Ⅱ)出土石器觀察表(2)	108
第5表	佐城遺跡(Ⅱ)出土石器・玉觀察表(1)	77	第9表	原遺跡(Ⅱ)出土石器・玉觀察表	109
	佐城遺跡(Ⅱ)出土石器・玉觀察表(2)	78			

図 版 目 次

巻頭図版	滝ノ宮・佐城(Ⅱ)・鶴射遺跡出土旧石器		図版18	佐城遺跡(Ⅱ)出土遺物(9)A面	134
図版1	下突出遺跡調査前・SK1001・SK1002 出土遺物	117	図版19	佐城遺跡(Ⅱ)出土遺物(9)B面	135
図版2	滝ノ宮遺跡SK1002・SK1004・SO1001	118	図版20	佐城遺跡(Ⅱ)出土遺物(0)A面	136
図版3	滝ノ宮遺跡SO1002・SK1004遺物出土状況 SP1060遺物出土状況	119	図版21	佐城遺跡(Ⅱ)出土遺物(0)B面	137
図版4	滝ノ宮遺跡出土遺物(1)	120	図版22	佐城遺跡(Ⅱ)出土遺物(0)A面	138
図版5	滝ノ宮遺跡出土遺物(2)A面	121	図版23	佐城遺跡(Ⅱ)出土遺物(0)B面	139
図版6	滝ノ宮遺跡出土遺物(2)B面	122	図版24	鶴射遺跡北部遺構面検出状況 南部遺構面検出状況・SO1001	140
図版7	佐城遺跡(Ⅱ)調査前・SK1003根石検出状況 SK1004根石検出状況・旧石器出土状況	123	図版25	鶴射遺跡SO1002土層断面・旧石器出土状況	141
図版8	佐城遺跡(Ⅱ)出土遺物(1)	124	図版26	鶴射遺跡出土遺物	142
図版9	佐城遺跡(Ⅱ)出土遺物(2)細石刃核	125	図版27	原遺跡(Ⅱ)調査前・作業風景 SK1002土層断面	143
図版10	佐城遺跡(Ⅱ)出土遺物(3)A面・B面	126	図版28	原遺跡(Ⅱ)SK1002完掘状況 SK1004遺物出土状況・SP1049遺物出土状況	144
図版11	佐城遺跡(Ⅱ)出土遺物(4)A面・B面	127	図版29	原遺跡(Ⅱ)出土遺物(1)	145
図版12	佐城遺跡(Ⅱ)出土遺物(5)A面・B面	128	図版30	原遺跡(Ⅱ)出土遺物(2)	146
図版13	佐城遺跡(Ⅱ)出土遺物(6)A面・B面	129	図版31	原遺跡(Ⅱ)出土遺物(3)	147
図版14	佐城遺跡(Ⅱ)出土遺物(7)A面	130	図版32	原遺跡(Ⅱ)出土遺物(4)A面・B面	148
図版15	佐城遺跡(Ⅱ)出土遺物(7)B面	131	図版33	旧石器A面	149
図版16	佐城遺跡(Ⅱ)出土遺物(8)A面	132	図版34	旧石器B面	150
図版17	佐城遺跡(Ⅱ)出土遺物(8)B面	133			

I 調査に至る経緯

I 調査に至る経緯

四国縦貫自動車道は「国土開発幹線自動車道建設法」及び「高速自動車国道法」に基づいて、四国4県を結ぶ幹線道路として計画された。徳島自動車道においては、徳島～脇間については昭和48年(1973)10月「道路整備特別法」に基づき、建設大臣から第7次の施工命令が出され、昭和55年実施計画の許可、昭和56年1月に路線発表がされた。

昭和61年4月には道路局長通達により暫定施工に変更され、昭和62年11月に徳島～脇間の起工式が行われた。昭和63年5月には、藍住LC(追加LC)の施工命令が出され、6月に実施計画が許可されている。

この区間は徳島市川内町を起点とし、吉野川に並行して西進し、板野郡板野町の沖積平野を横断した後、同郡上板町から阿波郡阿波町にかけて讃岐山脈を通過して脇町(区間41.4km)を結ぶものである。

この間、徳島県教育委員会(県教委)は昭和60～62年度にかけて板野～脇間、63年度には徳島～板野間の路線に係わる分布調査を実施し、埋蔵文化財の実態把握に努めた。また、県教委は供用が第10次5カ年計画に取り入れられ、平成5年が目標となっていることを受けて、昭和63年度に大規模開発に即応した調査体制の整備を図り、平成5年4月、財団法人徳島県埋蔵文化財センター(以下センター)を発足させ、発掘調査に対応することとなった。センターでは発掘調査に当たって、機械掘削等工事請負方式と空中写真撮影図化を導入することで、調査の効率化・迅速化に努める方針で臨んだ。しかし、文化財対象地があくまで分布調査結果に基づくものであり、工事請負として発注するためには掘削土量の把握が不可欠であるため、試掘調査を先行し、遺構の状態及び層厚の把握に努めた。また、用地取得状況を勘案しつつ、散布地・集落跡・古墳など、遺跡の性格・遺構の累積数に応じた調査方法、調査工期について検討を行い調査を実施した。その結果、平成5年3月に徳島～脇間の埋蔵文化財調査を終了することとなった。

脇～美馬間の第10次区間(区間11.7km)については、昭和63年5月に施行命令が出され、6月に路線発表が行われた。この区間の遺跡に関しても、徳島～脇間で実施された調査等に関する基本的な事項については適用され、その成果に基づいて周知の遺跡等は予定路線から極力回避するような方向で話し合いが行われた。平成4年4月には埋蔵文化財の取り扱いに関する協議が成立し、脇町分で10遺跡65,600㎡、美馬町分で5遺跡40,400㎡の合計15遺跡106,000㎡が調査の対象となった。この区間の路線は讃岐山脈の低丘陵上を切断して通る設計となったため、数多くの遺跡が調査の対象となった。発掘に際しては対象面積の規模やその立地状況等から調査効率の低下や進入路等の確保に関する問題点も多く、調査を進めるうえで困難を極める状況が想定された。また、当該区間の供用開始目標が平成9年度に設定されたことも受け、脇～美馬間においては、これまでの調査の経緯を踏まえ、より実態に即した調査基準の設定が図られ導入された。しかしながら、用地買上げの遅れが目立ち未買収地が点在する中で調査が進行するといった状況が見られた。平成5年度は佐城遺跡(Ⅰ)・(Ⅱ)や滝ノ宮遺跡での新規買収地内の試掘や原遺跡(Ⅰ)・(Ⅱ)、鶴射遺跡、田上遺跡(Ⅲ)、井口遺跡、坊僧遺跡での部分試掘も実施された。原遺跡(Ⅰ)、佐城遺跡(Ⅰ)、井口遺跡等は試掘のみで調査を終了した。原遺跡(Ⅱ)については試掘と一부분調査の実施で終了した。坊僧遺跡に関しては窯跡群としての立地が知られており、窯体確認のための磁気探査を取り入れるなど様々な方策を用いた試掘調査がなされた。平成6年度は脇町分では鶴射遺跡、佐城遺跡(Ⅱ)、田上遺跡(Ⅰ)・(Ⅱ)・(Ⅲ)の本調査が、美馬町分では薬師遺跡、坊僧遺跡、池ノ浦遺跡の試掘調査が実施された。田上遺跡は岩倉城との関連が考慮される遺跡で、田上遺跡(Ⅱ)の南側には本丸跡

も現存し、関連遺構の実態説明が期待された。坊僧遺跡については、すでに一部で試掘調査がなされていたが、中黒・東段・西段地区においても新たに試掘が行われた。池ノ浦遺跡、坊僧遺跡西段地区においては、遺構が見られず試掘のみで終了となった。平成7年度は脇～美馬間の10次区間における発掘がピークを迎えた時期である。センターでは事業の一部変更なども実施して体制の充実を図り、当該区間の調査完了を目指して、田上遺跡(Ⅱ)・(Ⅲ)、薬師遺跡、坊僧遺跡、滝ノ宮遺跡、下突出遺跡等での調査が全面展開した。尚、第11次区間でも試掘・本調査が本格化し始めるとともに、県教委に各種団体からの要望書・質問書が提出された。これに先だって県教委では、センターの組織改正を行うとともに、より一層の調査体制の充実、強化を図り発掘調査に対応することとなった。そして、平成8年6月に埋蔵文化財調査は田上遺跡(Ⅱ)、薬師遺跡芝坂地区の調査終了をもってすべて完了することとなった。平成5年2月の佐城遺跡(Ⅱ)での試掘開始から、3年4ヶ月余りの期間を費やし、コンテナ493箱(73,830点)にもぼる貴重な遺物が出土した。また、発掘調査終了後の出土遺物の整理作業については、公団・県教委の協議により平成10年度から開始することとなり、基本年次計画案を作成し、現在整理作業が進行中である。

調査組織及び整理体制は以下である。

〈調査組織〉

所長	筒井豊祐 (平成7年度)	
事務局長	柴田 広 (平成5・6・7年度)	
総務課長	岡本一仁 (平成5年度)	小林敬治 (平成6・7年度)
主事	三木和文 (平成5・6・7年度)	西木未香 (平成7年度)
調査課長	紀伊司郎 (平成5・6年度)	
調整係長	鳥巡賢二 (平成5・6年度)	
調査係長	菅原康夫 (平成5・6年度)	
課長兼調査第1係長	鳥巡賢二 (平成7年度)	
主査兼調査第2係長	逢坂俊男 (平成7年度)	
技術主任	酒井彰彦 (平成5・6年度)	
技師	青木雅和 (平成7年度)	

調査担当

原遺跡(Ⅰ)・(Ⅱ)

研究員	佐野耕市 (当時)	九十九肇 (当時)
-----	-----------	-----------

鶴射遺跡

研究員	佐野耕市 (当時)	九十九肇 (当時)	久保臨美朗	石本 卓 (当時)
-----	-----------	-----------	-------	-----------

佐城遺跡(Ⅰ)・(Ⅱ)

研究員	佐野耕市 (当時)	九十九肇 (当時)	久保臨美朗	石本 卓 (当時)
-----	-----------	-----------	-------	-----------

井口遺跡				
研究員	佐野耕市（当時）	九十九肇（当時）		
池ノ浦遺跡				
研究員	大北和美	山田正之（当時）		
滝ノ宮遺跡				
研究員	佐野耕市（当時）	九十九肇（当時）	栗林誠治	高柳孝治
下突出遺跡				
研究員	九十九肇（当時）	武市文男（当時）		

〈整理組織〉

所長	本淨敏之（平成13年度）
事務局長	伊丹康裕（平成13年度）
総務課長	高野 明（平成13年度）
主査兼係長	福本紀美子（平成13年度）
主事	田所政儀（平成13年度）
整理普及課長	島巡賢二（平成13年度）
整理係長	貞野保仁（平成13年度）

整理担当 報告書作成

研究員	金森映人				
整理作業員	折野悦子	高石里恵	長尾千春	東中美智子	和田悦子

Ⅱ 遺跡の立地と環境

1 地理的環境

徳島県は四国東部に位置し、面積は4,144km²。全面積の約8割は山地である。約2割の平野部は吉野川流域、勝浦川流域、那賀川流域、海部川流域に存在し、全て東方向に開けている。こうした徳島県の地形を決定づけるものが、鳴門市里浦から讃岐山脈の南麓を通り、脇町一池田町一川之江市に連なる低地帯を東西に走る中央構造線である。この中央構造線沿いに吉野川が東流する。

中央構造線北側の内帯は和泉層群にあたり、主に砂岩層と泥岩層の互層からなり、讃岐山脈を形成している。構造線断層系の活動により北側が隆起する事で断層崖を形成したり、構造線断層系直下は破碎帯となり軟弱地盤であることから讃岐山脈からの押し出しが盛んになり扇状地が形成されたりしている。これら吉野川北岸の扇状地は、地殻変動の影響で西側が隆起しているために、西に向かうにつれて段丘化している。一方、中央構造線南側の外帯は三波川帯にあたり主に結晶片岩からなる。吉野川は中央構造線によって形成された構造谷に沿って流れるが、北側の讃岐山脈側からの堆積が大きいために南側に寄っている。山川町舟戸と阿波町岩津以東の下流域は、吉野川が大きく蛇行・曲流するために、徳島平野を網状河川として流下する。南岸の名西郡内を東流する神宮入江川や飯尾川、綿内川も吉野川の旧河道と考えられる。和泉層群の地質構造により各河川の浸食が進み急峻な谷地形を作る一方、山頂付近や尾根は比較的なだらかな地形となる。和泉層群と中央構造線による軟弱地盤の浸食作用は、断層崖から吉野川にかけての区間において堆積作用となり平野部を形成する。小規模ながらも吉野川南岸に比べ平野が発達している。平野部は河岸段丘・扇状地と沖積平野から構成されている。これらの区分は必ずしも明確でなく、段丘や氾濫源の表層は支流の堆積物が覆い、形態的には扇状地となっている。こうした扇状地の形成要因には地質時代に讃岐山脈が盛んに隆起した結果と考えられている。

この吉野川中流北岸讃岐山脈南麓に位置する美馬郡美馬町・脇町付近は、西から、讃岐山系の大滝山(標高964m)等に源を発する中野谷川・鍋倉谷川・野村谷川・井口谷川・大谷川・曾江谷川などが、吉野川に向けて南流している。いずれも枯れ川で短く、扇状地上では天井川も多い。これらの河川により形成された扇状地上に、本報告書収録の下突出遺跡他8遺跡が存在する。

2 歴史的環境

(文中①～⑧は第1図中の番号である)

旧石器時代

旧石器時代の遺跡は主に吉野川北岸の段丘上に分布する。滝ノ宮遺跡③、鶴射遺跡⑤、佐城遺跡(Ⅱ)③、坊僧遺跡東段地区①②などがある。佐城遺跡Ⅱからは県内初のサヌカイト製細石刃核が出土している。坊僧遺跡東段地区からはサヌカイト製ナイフ形石器、角錐状石器、スクレイパーなどと共に、ブロックが3ヶ所検出されている。

縄文時代

縄文時代の遺跡も主に段丘上に分布するが、吉野川沿いの沖積平野上にも形成される。大量の遺物とともに、竪穴住居跡1軒が出土した貞光町の貞光前田遺跡。後期の地焼炉や晩期の突帯文土器が出土した美馬町薬師遺跡、中期から晩期の土器が大量に出土した荒川遺跡がある。扇状地扇頂部に立地する荒川遺跡からは谷部より大量の中期から晩期にかけての土器が出土した。

弥生時代

弥生時代の遺跡は時期によって立地が違い、段丘上に立地する時期と沖積平野に立地する時期がある。前期から中期前半にかけては低位段丘及び沖積平野に立地する遺跡が多い。中期中葉から後期初頭にかけては吉野川に面した低地の遺跡分布密度は低くなり、中段丘や低位段丘上位面を中心に分布する傾向がある。後期以降は再び吉野川沿いの沖積地に遺跡が展開する。後期の竪穴式住居跡7軒を検出した美馬町吉水遺跡や、後期から古墳時代初頭にかけての竪穴式住居跡・掘立柱建物跡を検出した、貞光町前田遺跡、脇町東城山遺跡①、別所遺跡②などがある。

古墳時代

古墳時代初頭から前期には弥生時代に続いて吉野川沿いの沖積地に遺跡が展開し、殆どの遺跡が古墳時代初頭まで存続する。前期末の美馬町七人塚古墳からは板状鉄斧が出土している。中期に関しては箱形石棺を主体部とする美馬町井川塚古墳などを除いて確認された古墳が少なく、実態は不明である。中期の集落遺跡も充分把握されていない。当該地において、本格的に古墳が造営されるのは後期以降のことである。美馬郡・三好郡内では段ノ塚穴型石室と呼ばれる地城色の強い横穴式石室が集中的に築造される。この段ノ塚穴型石室の最大の分布域は美馬町から脇町にかけての吉野川北岸地域である。美馬町大國魂古墳を初現とし、太鼓塚古墳・棚塚古墳（段ノ塚穴③）、江の脇古墳等が7世紀前半まで連続と築造される。

古代

美馬郡内には蕃原郷・三次郷・大島郷・大村郷・三縄郷・三津郷・三野郷の7郷が設置された。蕃原郷は現在の美馬郡脇町坪原を中心とした曾江谷川が吉野川に流れ込む河口付近に比定される。

三次郷は、穴吹町穴吹・三島地域に比定される。大島郷は、貞光町・半田町に比定される。大村郷は、美馬町郡里付近に比定される。この大村郷に美馬郡衙（評衙）が設置されたと推定される。ここに1967年と1968年の2次にわたり調査され、その詳細が明らかになった寺院郡里庵寺⑦が建立された。徳島県最古の法起寺式伽藍配置を持つ東西94メートル南北120メートルの大規模な寺院で素弁蓮華文鏡瓦・須恵器・土師器・鷲尾などが出土している。なお郡里地区北部段丘上には窯業地帯であり坊僧池瓦窯跡④で焼成された瓦が郡里庵寺に供給されていた。段ノ塚穴や郡里庵寺出土の須恵器もこの一帯で焼成されたと考えられる。

文献史学の分野からは、6世紀後半から7世紀中葉にかけ佐伯直氏によってこの地域一帯が統括されていたと考えられている。天平7～8年と考えられる平城宮二条大路跡出土木簡には「美馬郡三野郷戸主佐伯直國麻呂」とあり、更に『三代実録』貞観12年7月19日条には「阿波国三好郡少領外従八位上仕直浄宗等五人、賜姓佐伯直」とある。佐伯直氏は美馬郡（分離以後は美馬郡・三好郡）においては有力氏族であったことがわかる。

中世

美馬郡内には穴吹庄、八田山（現半田町）、大島山、重清（現美馬町）、祖山（現祖谷山）郷、郡里などの荘園・国衙領が成立している。現在の脇町や穴吹町を中心に、このころ設置されたと見られる多くの板碑が現存している。年号は北朝年号のものが多く、この時代の遺跡としては滝ノ宮の台地突端（美馬町字滝ノ宮）にある滝ノ宮経塚②がある。出土遺物から鎌倉初期のものと推定される。

近世

天正13年豊臣秀吉は四国討伐に功績のあった蜂須賀氏に阿波国17万5千石を与えた。長宗我部氏の旧

城である一宮城に蜂須賀家正が入城したがすぐに徳島城に移転した。家正は阿波九城を定めて国内の守りとした。脇城⑨は阿波西部の拠点として重要な位置にあった。城代として稲田氏が美馬郡一帯を支配した。

近現代

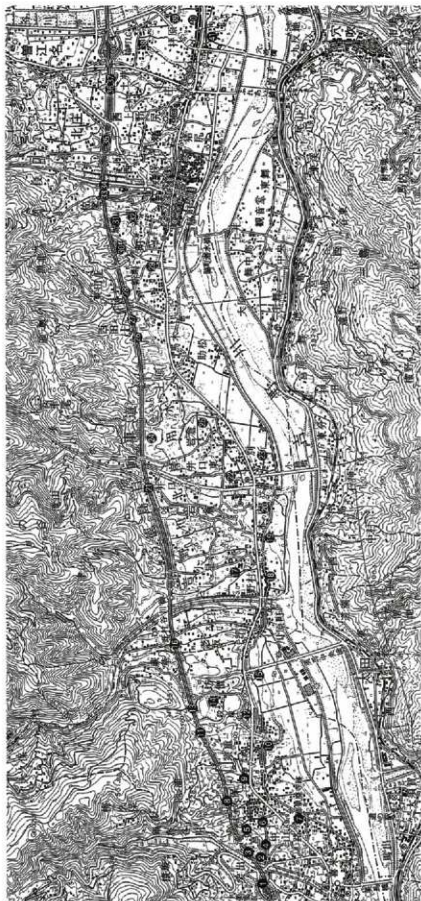
1870年麻植・阿波・美馬・三好郡は西民政所の管轄下となった。明治維新をむかえた1870年（明治3）、淡路国洲本城代だった稲田氏と、家臣の身分をめぐり稲田騒動とよばれる流血事件がおき、これが遠因となって1871年7月の廃藩置県では淡路国のうち津名郡は兵庫県に編入され、三原郡と阿波国で徳島県が成立。同年11月には津名郡を編入して名東（みょうどう）県と改名、1873年に香川県を編入したが翌々年には分離、1876年には旧阿波国は高知県に、旧淡路国は兵庫県に併合され、1880年によりやく高知県から再分離して現在の徳島県となった。

参考文献

美馬町史

脇町史

徳島県埋蔵文化財センター年報 Vol.4～Vol.8



- ①下野田遺跡
- 2 滝ノ宮神社
- ③滝ノ宮神社
- 4 坂式石段
- 5 藤掛古井
- ⑥藤掛寺古井
- ⑦藤掛寺古井
- ⑧藤掛寺古井
- ⑨藤掛寺古井
- 10 藤掛寺古井
- 11 藤掛寺古井
- 12 藤ノ宮(大岩塚・橋渡)
- 13 藤掛寺古井
- 14 藤掛寺古井
- 15 藤掛寺古井
- 16 藤掛寺古井
- 17 藤掛寺古井
- 18 藤掛寺古井
- 19 藤掛寺古井
- 20 文蔵寺
- ④井口遺跡
- 22 岩倉1号墳
- 23 新所遺跡
- 24 上ノ所遺跡
- 25 藤掛寺古井
- 26 田上遺跡 (Ⅱ)
- 27 田上遺跡 (Ⅰ)
- 28 田上遺跡 (Ⅰ)
- 29 田上遺跡 (Ⅰ)
- 30 田上遺跡 (Ⅰ)
- 31 東城山遺跡
- 32 東城山遺跡 (Ⅱ)
- ⑤佐城遺跡 (Ⅰ)
- ⑥佐城遺跡 (Ⅰ)
- ⑦佐城遺跡 (Ⅰ)
- ⑧佐城遺跡 (Ⅰ)
- 33 佐城遺跡 (Ⅰ)
- 34 佐城遺跡 (Ⅰ)
- 40 藤掛寺古井
- 41 藤掛寺古井

第1図 掲載遺跡と周辺の遺跡

Ⅲ 試掘調査

1 池ノ浦遺跡



第2圖 池ノ浦遺跡調査地点 S=1/1000

池ノ浦遺跡

調査期間 1994年7月7日～7月15日

遺跡の位置

標高130～150mの鍋倉谷川左岸の狭い尾根上に位置する。南に向かう穏やかな傾斜地で、東西は急峻な崖である。1994年7月7日～7月15日まで試掘調査が行われた。調査対象面積は850m²。今回試掘面積は26m²。分布調査ではサヌカイト片・土師器片が採取されている。

基本層序

第1層はオリブ褐色砂質の耕作土。第2層は黄褐色砂質の床土。第3層は浅黄色の砂質土。

調査結果

包含層・遺構等は検出されなかった。すべてのトレンチは、耕作土直下が地山の風化層となっている。

まとめ

調査結果より今回の調査地に遺跡の存在する可能性はほとんどないと考え、本調査は実施しなかった。

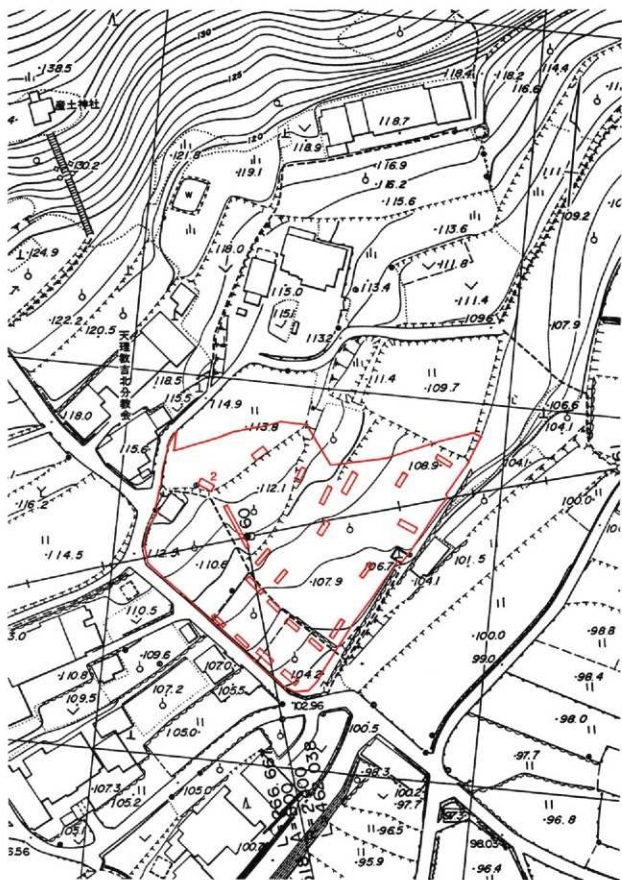


調査前



トレンチ1

2 井口遺跡



第3圖 井口遺跡調査地点 S=1/1000

井口遺跡

調査期間 1993年10月13日～10月25日

遺跡の位置

井口谷川右岸の河岸段丘上の最も讃岐山脈よりに位置する標高110m前後の傾斜地である。現況は水田と果樹園である。調査対象面積は3,500㎡。今回試掘面積は150㎡。分布調査では土師器片・サヌカイト片・中世土器片が採取されている。

基本層序

果樹園であったところの第1層は黒褐色粘質の耕作土。第2層は明黄褐色砂質の床土。その他の場所は表土直下よりしまりのない水分を多く含む角礫層が続き、果樹園であったところでは地表面から1m程度まで攪乱を受けている。

調査結果

すべてのトレンチから遺構・遺物は検出されなかった。

まとめ

各トレンチの層序により、現在の地表面近くの土層は土砂崩れのようなもので一気に堆積したと考えられる。また下方の層は河川の影響を強く受けている。さらに果樹植樹の際の攪乱が地下約1mまで及んでいる。以上のことと、遺構・遺物が検出されなかったことからこの調査区の本調査は実施しなかった。

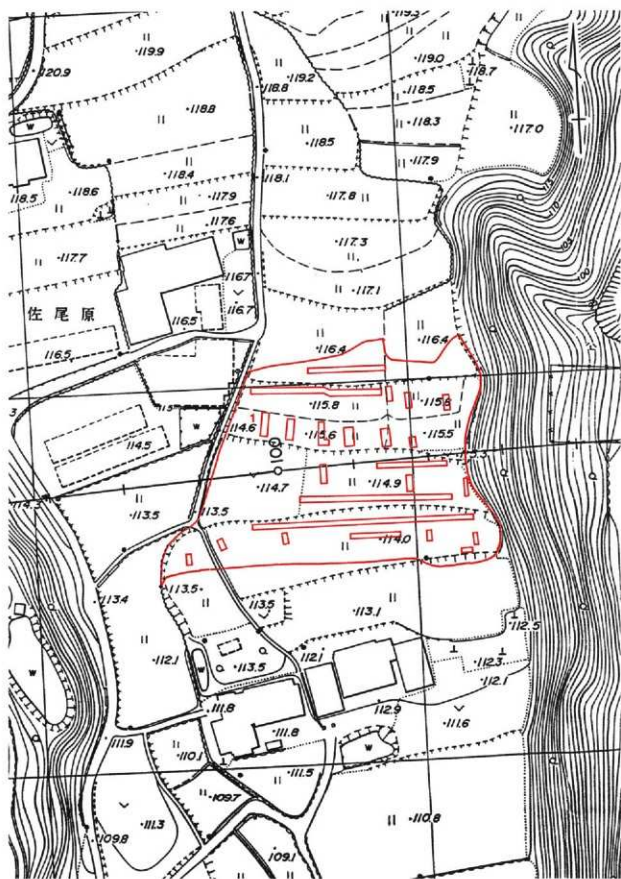


調査前



トレンチ2

3 佐城遺跡(I)



第4図 佐城遺跡 (I) 調査地点 S=1/1000

佐城遺跡(Ⅰ)

調査期間 1993年4月28日～5月14日

遺跡の位置

標高110m前後の大谷川右岸の河岸段丘上に位置する。調査対象地の東端は大谷川、西端は小麦谷によって深く開析されているため比高差約40mの断崖となっている。現在は段々畑・水田となっているが、本来は南に下る緩傾斜の地形であり、小流路が数本南方へ走っている。

調査対象面積は3,920㎡。今回試掘面積は400㎡。分布調査ではサヌカイト片・中世土器片が採取されている。

基本層序

第1層は黒褐色粘質の耕作土、第2層は明黄褐色砂質の床土、第3層は灰白色のよくしまった砂岩を多く含む砂質土である。一部のトレンチからは褐灰色の旧耕作土・鈍い黄褐色の床土、あるいは谷状地形独特の堆積と見られる明褐色の砂礫層も見られた。

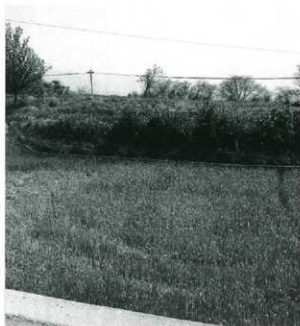
なお第2次大戦時調査対象地近くには、砲弾貯蔵庫があり、調査対象地にも不発弾が残存している可能性があるため事前に磁気探査を行い異常反応が認められた地点を避けてトレンチを設定した。

調査結果

トレンチ設定場所から、遺構は検出されなかった。出土遺物のうちサヌカイト製石鏃とガラス製薬玉を図化した(60ページ第30図)。その他には耕作土中からわずかに土鍋片・サヌカイト片等が検出された。田畑造成時に旧地形はかなりの削平を受けていた。

まとめ

今回の調査地は、緩傾斜の河岸段丘上であり、東城山遺跡など、周辺の遺跡のあり方、採集された遺物などから何らかの遺構の存在が期待された。しかし、耕作土を除く層に何らの遺構も確認できなかった。したがって本調査は実施しなかった。

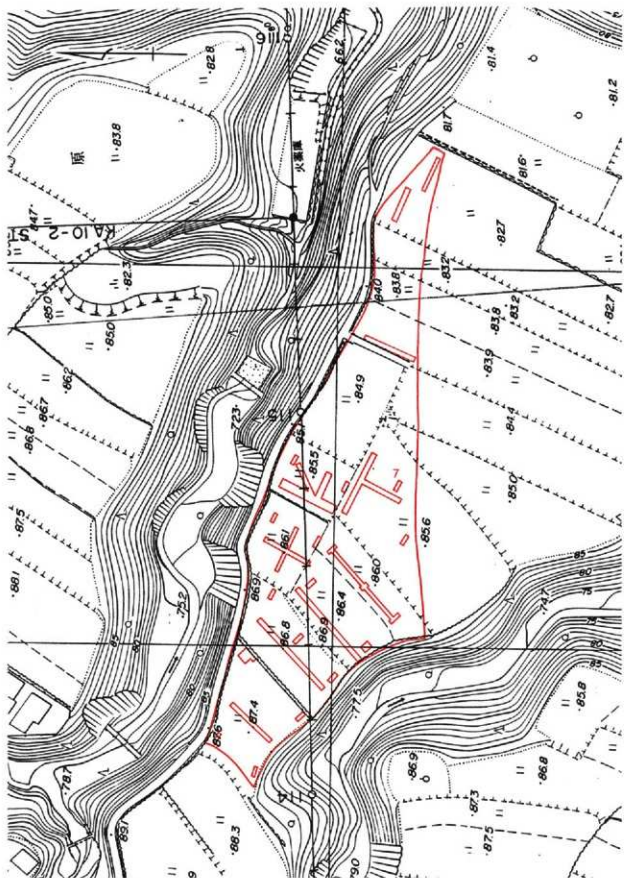


調査前



トレンチ1

4 原遺跡(I)



第5図 原遺跡 (I) 調査地点 S=1/1000

原遺跡 (I)

調査期間 1993年6月28日～7月9日

遺跡の位置

曾江谷川右岸の標高80～110m前後の隆起扇状地上に位置する。調査対象地の北・南・西の三方は樹枝状の流路によって著しく開析され比高差約40mの断崖となっていて北西から南東へ舌状に伸びる緩傾斜の台地となっている。現況は段々畑・水田である。調査対象面積は4,300㎡。今回試掘面積は380㎡。分布調査ではサヌカイト剥片・チャート剥片が採取されている。

基本層序

第1層は黒褐色粘質の耕作土、第2層は灰白色のよくしまった、砂岩を多く含む砂質土である。いくつかのトレンチからは旧耕作土や、谷状地形独特の堆積と見られる明褐色の砂礫層も見られた。

調査結果

トレンチ設定場所から、遺物は検出されなかった。わずかにサヌカイト片・土師質小皿底部等の遺物が耕作土中より出土したのみであった。今回の調査地は田畑の造成時にかなりの削平を受けており、耕作土の直下が整地された地山となっている。

まとめ

調査結果より今回の調査地に遺跡の存在する可能性はほとんどないと考え、本調査は実施しなかった。



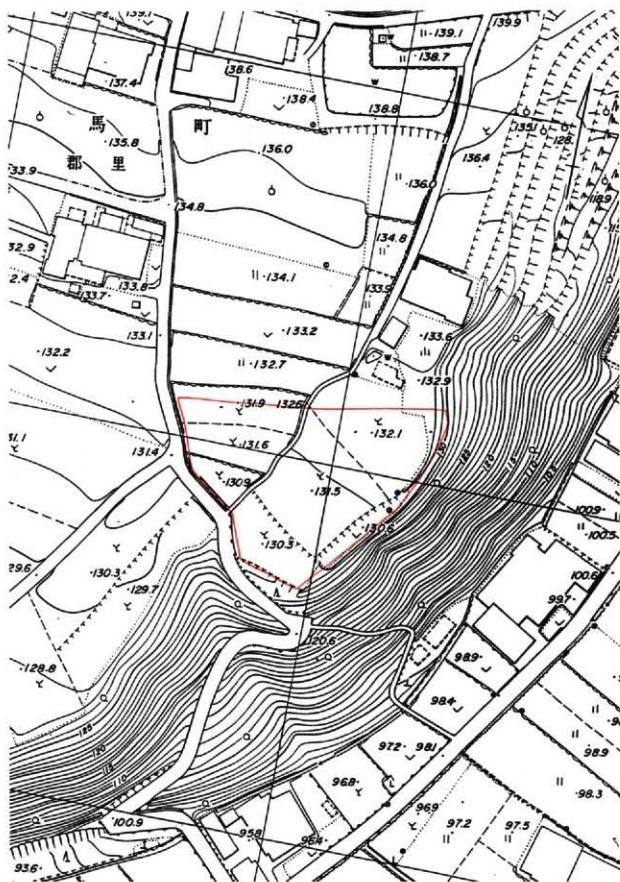
調査前



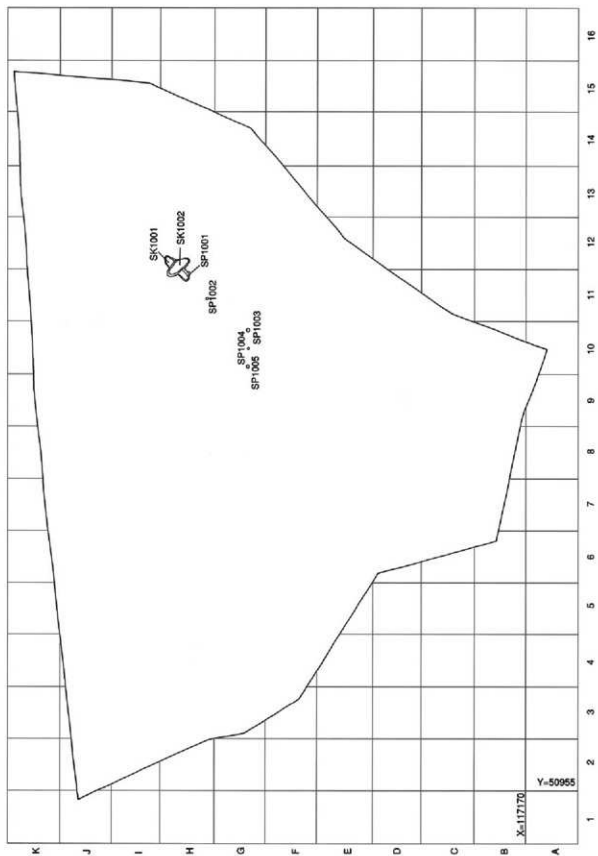
トレンチ7

Ⅳ 調査成果

1 下突出遺跡



第6圖 下突出遺跡調査地点 S=1/1000



第7図 下突出道跡遺構配置図

(1) 調査の経過

①遺跡の位置

竜王山を源流とする鍋倉谷川によって形成された、隆起扇状地上標高130mほどの南に向かう緩斜面上に位置する。調査区の南側および東側は、比高差約40mの急斜面になっている。現況は水田・畑である。

1995年4月27日から5月9日まで試掘調査が行われた。試掘対象面積は300㎡。

本調査は1995年11月20日から1996年2月2日の間実施された。11月28日サヌカイト多数出土。12月22日遺構面精査。1996年1月9日積雪し除雪作業。

②基本層序

第1層はにぶい黄褐色砂質の耕作土、第2層は明黄褐色の床土第3層はにぶい黄褐色の旧耕作土、第4層は明黄褐色の床土、調査区の北西部ではほとんど削平を受けているが、第5層がにぶい黄褐色の層で、この層の上面が遺構検出面である。

③発掘調査の方法

調査を始めるにあたり、グリッドの配置は、発掘調査統一基準に倣い、第IV系国土座標を基準とし、1辺5mを1グリッドとして調査対象地を包み込む形で設定した。南西隅を基準とし、北にA~K、東に1~16の記号をふり、その組み合わせで各グリッドを表すこととした。

(2) 遺構と遺物

土坑（第8図）

SK1001 グリッドH11とH12に跨る。主軸方位N53°E長軸312cm短軸102cm。SK1002に直交するように切られる。

出土遺物 サヌカイトの剥片21点

SK1002 グリッドH11とH12に跨る。主軸方位N27°W長軸245cm短軸102cm深さ17cm。

出土遺物 サヌカイトの剥片35点

柱穴（第9図）

SP1001 グリッドH11長軸35cm深さ3cm

SP1002 グリッドH11長軸25cm短軸23cm深さ16cm

SP1003 グリッドG10長軸38cm短軸32cm深さ14cm

SP1004 グリッドG10長軸29cm短軸26cm深さ12cm

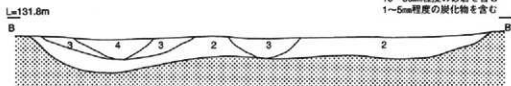
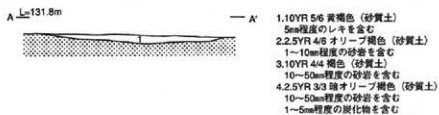
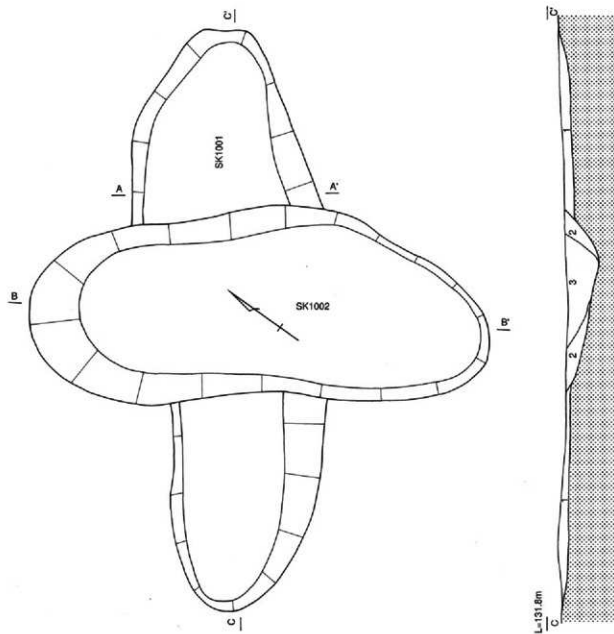
SP1005 グリッドG10長軸39cm短軸34cm深さ12cm

包含層出土遺物（図版1）

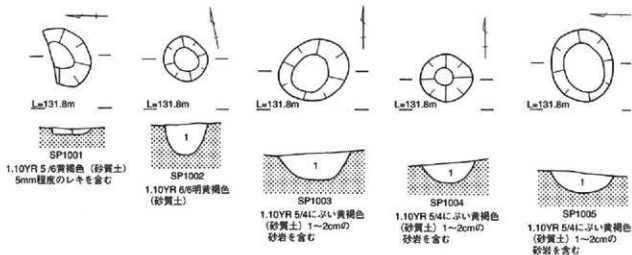
1はサヌカイト製の石鏝である。2・3・4はサヌカイト製のスクレイパーである。これ以外にも使用されたと思われるサヌカイト剥片がいくつか出土したが石器として加工痕の顕著なものだけを図示した。

(3) まとめ

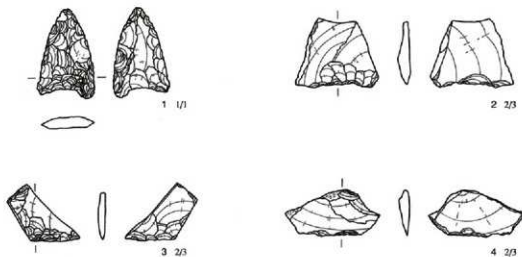
遺構が検出された地点以外は近世以降の田畑の造成で削平されており、残されていた包含層も非常に薄かった。したがって遺構・遺物を総合的に判断して、弥生時代の集落が存在していた可能性が高いが、規模については判断できない。



第8図 下突出遺跡 SK1001・SK1002遺構図 1/20



第9図 下突出遺跡遺構図 1/20

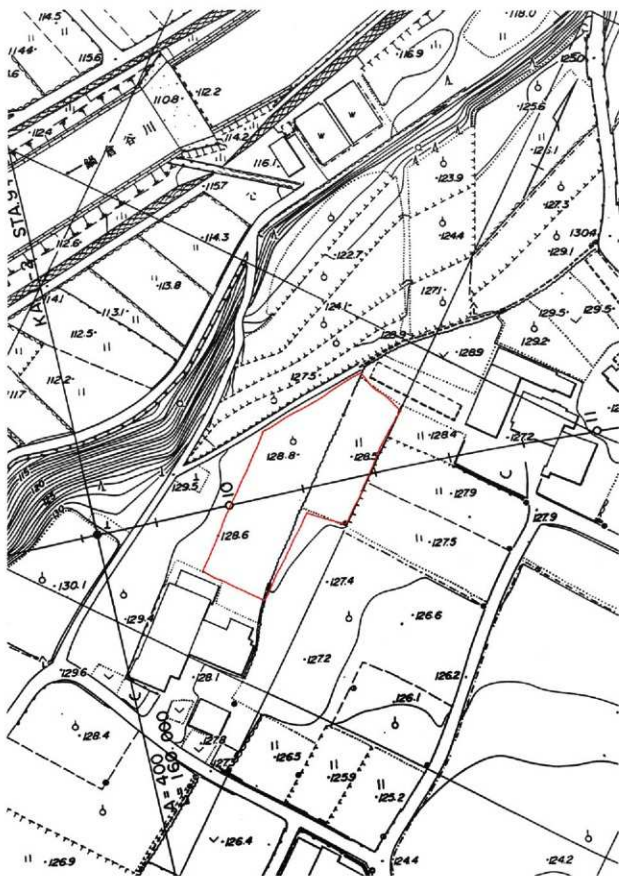


第10図 下突出遺跡 包含層 出土遺物

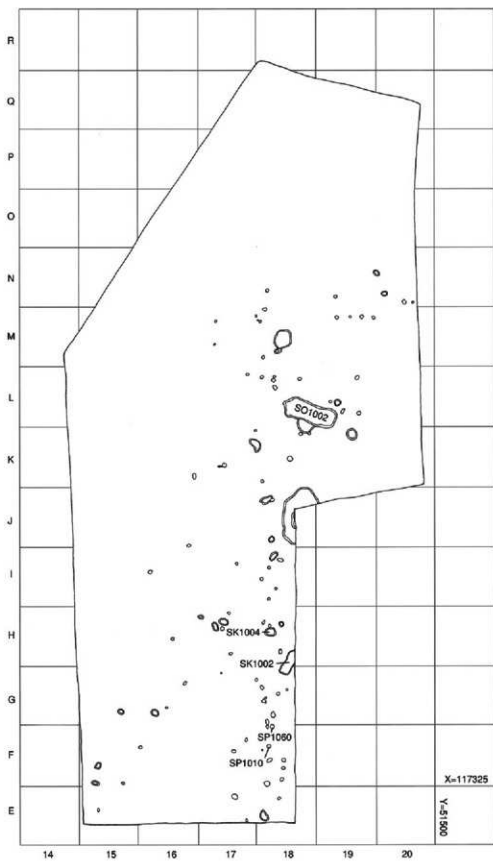
第1表 下突出遺跡出土石器観察表

遺跡名	番号	グリッド	遺構	器種	石材	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)
下突出	1	G12	包含層	石鏃	サヌカイト	23.6	14.8	2.9	1.2
下突出	2		包含層	スクレイパー	サヌカイト	27.4	33.1	5.2	4.1
下突出	3	G12	包含層	スクレイパー	サヌカイト	22.5	28.7	2.8	1.8
下突出	4		包含層	スクレイパー	サヌカイト	18.2	38.0	4.2	2.5

2 滝ノ宮遺跡



第11图 滝ノ宮遺跡調査地点 S=1/1000



第12図 滝ノ宮遺跡遺構配置図

(1) 調査の経過

①遺跡の位置

西を鍋倉谷川、東を野村谷川に挟まれた、標高約130mの中位段丘上最西端部にある。本遺跡の南側の段丘突端部には滝ノ宮経塚があり、銅製経筒・経筒外巻・和鏡等が出土している。段丘下の扇状地には平野古墳・荒川古墳・海原古墳などの古墳が点在している。遺跡は段丘上の平坦地に展開している。1994年11月29日から12月22日の間試掘調査が行われ、土師器片・サヌカイト片等が出土した。1995年5月8日から1996年3月31日の間本調査が行われた。

②基本層序

調査区の北側及び西側は果樹園造成時に削平されており、耕作土直下から地山が検出された。したがって遺構は調査区の東半に存在する。

第1層は黒褐色粘質の耕作土、第2層は明褐色砂質の床土、第3層は明黄褐色の砂質土（この層の上面が中世の遺構面を形成すると思われる）、第4層は扇状地特有の砂岩礫を多く含んだ明黄褐色の砂質土である。

③発掘調査の方法

調査を始めるにあたり、グリッドの配置は、発掘調査統一基準に倣い、第Ⅳ系国土座標を基準とし、1辺5mを1グリッドとして調査対象地を包み込み形で設定した。南西隅を基準とし、北にA～R、東に1～20の記号をふり、その組み合わせで各グリッドを表すこととした。

(2) 遺構と遺物

炭窯

SO1002（第13図）

グリッドL18・L19に跨る。主軸方位N69°E。長軸453cm短軸171cm深さ27cm。

東に焚き口、西に煙道を持つ。焚き口部は窯体からなだらかに傾斜して立ち上がり、掘り込みはない。煙道部は窯体より若干掘り下げられて繋がっている。

出土遺物

5はサヌカイト製の石熨である。

土坑

SK1002（第14図）

グリッドG18・H18に跨る。主軸方向N29°E。長軸237cm以上短軸77cm深さ11cm。

出土遺物

6は土師質の小皿である。底部及び外面の調整は剥離して不明。内面は回転ナデを施している。

SK1004（第15図）

グリッドH18。主軸方向N38°E。長軸81cm短軸75cm深さ26cm。

出土遺物

7は須恵質の握ね鉢である。焼成は不良である。

柱穴

SP1010 (第16図)

グリッドF18。長軸39cm短軸32cm深さ20cm。

出土遺物

9は土師質の杯である。

SP1060 (第17図)

グリッドF18。長軸35cm短軸28cm深さ8cm。

出土遺物 (第18図)

10は土師質の杯である。底部内面中央に回転ナデによる著しい隆起がある。

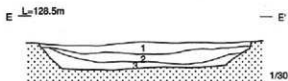
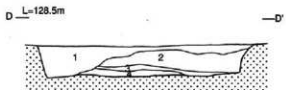
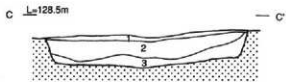
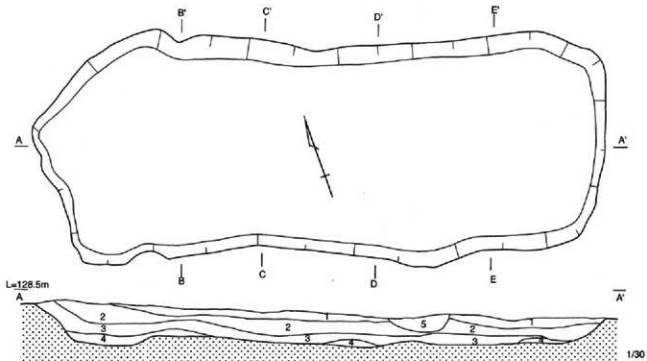
包含層出土遺物 (第19・20図)

11は翼状剥片を素材とした国府型ナイフ形石器である。調整加工の角度はやや緩く、素材の打面部分を裏面に一部残している。また刃部側先端と基部にも加工が施されている。サヌカイト製である。12・13はサヌカイト製の石鏃である。14・15・16はサヌカイト製のスクレイパーである。17は結晶片岩製の石楯である。18は砂岩製の砥石である。破断面とその向かい合う面以外の4面を使用している。19は泥岩製の擦痕が多い石器である。構成粒子の観察から18と同じ場所から採取された可能性がある。モース硬度2.5と軟らかく滑石やチョークのように筆記具として使用されたと思われる。

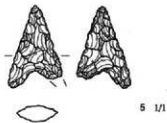
20・21は結晶片岩製の石庖丁である。22は礫き臼である。

(3) まとめ

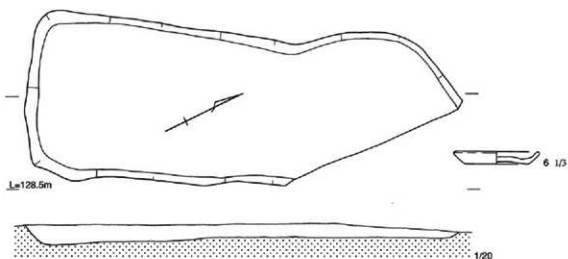
今回の調査では主に中世の遺構が検出された。遺構密度は薄く、段丘上に存在した集落の周辺部であると考えられる。また、出土遺物から弥生時代以前の遺跡も付近に存在した可能性がある。



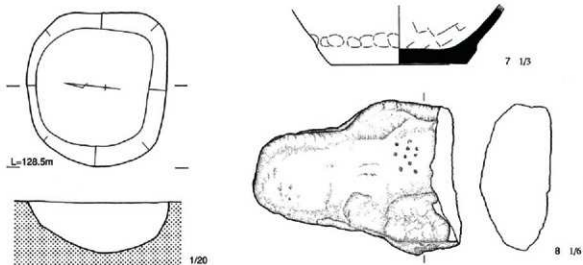
- 1. におい黄褐色 10YR6/3 シルト質土
- 2. 灰黄褐色 10YR6/2 シルト質土
- 3. 黒色 10YR2/1 粘性砂質土
- 4. 黒色 N1.50 炭化物層
- 5. 攪乱



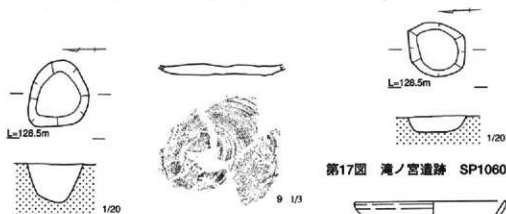
第13図 滝ノ宮遺跡 SO1002遺構図・出土遺物



第14図 滝ノ宮遺跡 SK1002 遺構図・出土遺物



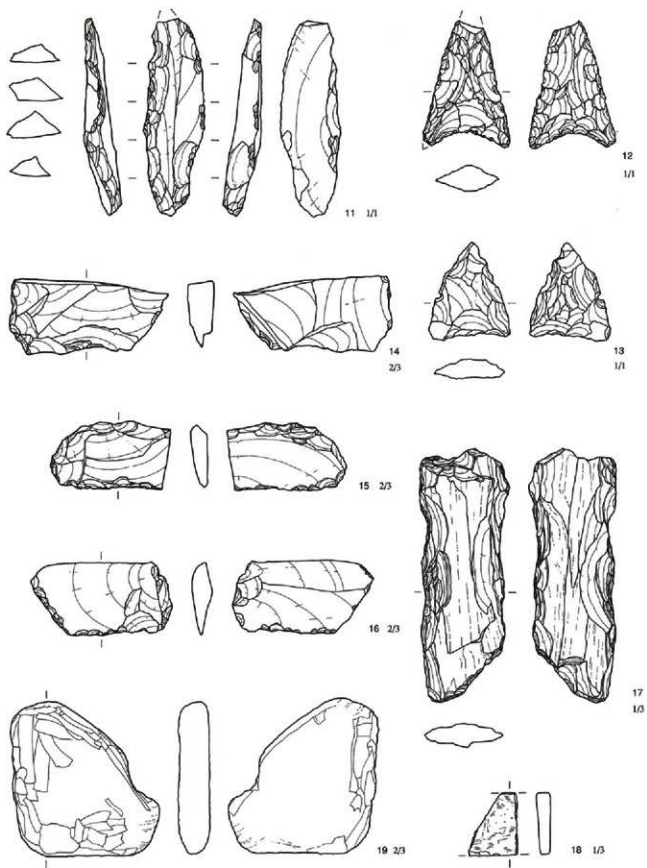
第15図 滝ノ宮遺跡 SK1004 遺構図・出土遺物



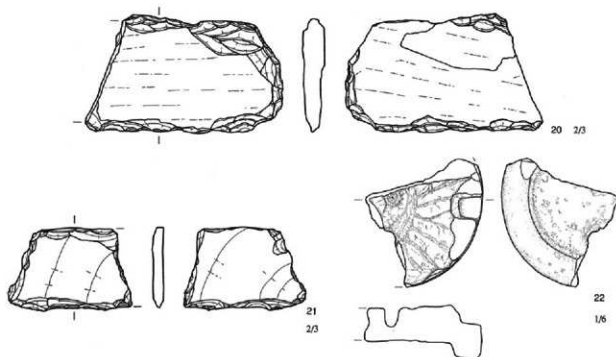
第17図 滝ノ宮遺跡 SP1060 遺構図

第16図 滝ノ宮遺跡 SP1010 遺構図・出土遺物

第18図 滝ノ宮遺跡 SP1060出土遺物



第19図 滝ノ宮遺跡包含層 出土遺物 (1)



第20図 滝ノ宮遺跡包含層 出土遺物(2)

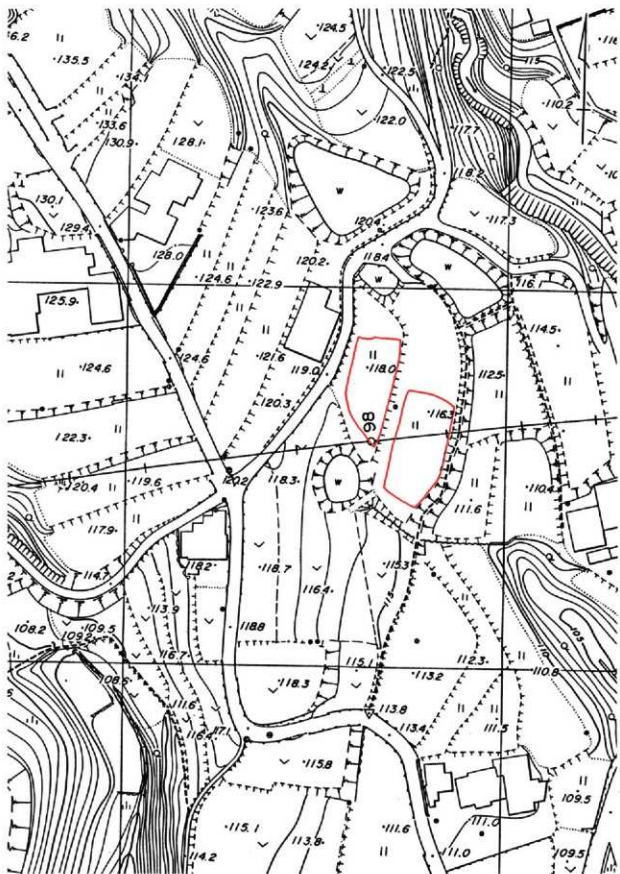
第2表 滝ノ宮遺跡出土土器観察表

番号	グリッド	遺構	器種	材質	含有物組	法量(cm)	外面調整等	内面調整等	外面色調	内面色調
6	GH18	SK1002	小皿	土師質	石英 片岩 雲母	口径 6.6 器高 1.2 底径 5.1	割離により 不明	ナデ	浅黄橙	浅黄橙
7	H18	SK1004	捏ね鉢	須恵質	長石 雲母		指オサエ	ケズリ	黄灰	灰
9	F18	SP1010	杯	土師質	雲母 長石 石英	底径 7.7	回転ナデ 底部回転 糸切り	回転ナデ 底部ナデ 後指オサエ	浅黄橙	浅黄橙
10	F18	SP1060	杯	土師質	石英 長石 雲母 片岩	口径 12.1 器高 3.0 底径 7.0	回転ナデ 底部回転 ヘラギリ	回転ナデ	にぶい橙	灰褐

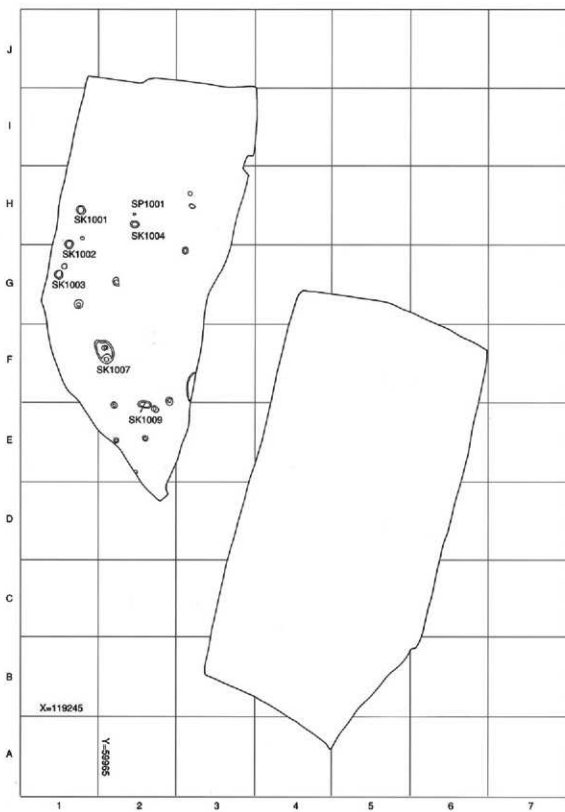
第3表 滝ノ宮遺跡出土石器観察表

番号	グリッド	遺構	器種	石材	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	備 考
5	L18~19	SO1002	石鏃	サヌカイト	21.5	(14.2)	3.9	0.8	
8	H18	SK1004	不明	砂岩	246.6	(328.8)	111.3	11,700	
11		表探	ナイフ形石器	サヌカイト	(52.1)	17.0	8.2	6.5	旧石器
12	J18	包含層	石鏃	サヌカイト	(33.3)	(23.2)	7.0	3.5	
13	L17	包含層	石鏃	サヌカイト	25.9	21.7	5.2	2.5	
14	J18	包含層	スクレイパー	サヌカイト	30.3	63.1	10.6	24.6	
15	K18	包含層	スクレイパー	サヌカイト	27.2	47.5	7.0	12.3	
16	K18	包含層	スクレイパー	サヌカイト	29.5	56.1	8.2	15.4	
17	I18	包含層	打製石鏃	結晶片岩	202.2	70.6	19.5	341.2	
18	J19	包含層	礫石	砂岩	(38.5)	49.7	11.0	26.0	4面使用
19	L20	包含層	不明	泥岩	61.9	58.8	12.6	58.0	用途不明
20		包含層	石彫丁	結晶片岩	47.3	78.1	8.5	45.7	
21	H18	包含層	石彫丁	結晶片岩	33.1	(48.5)	4.5	12.6	
22		包含層	碾き臼	砂岩	(25.5)	(18.6)	8.9	3,460	

3 佐城遺跡(Ⅱ)



第21図 佐城遺跡(Ⅱ) 調査地点 S=1/1000



第22図 佐城遺跡（Ⅱ）遺構配置図

(1) 調査の経過

①遺跡の位置

小規模な段丘上に位置し、東側に位置する北庄の段丘とは大滝山の中心部を源流とする大谷川によって隔てられている。遺跡周辺の段丘面は侵食が進み、深い谷に区切られた舌上の地形を呈している。遺跡は北から南に伸びる尾根の東側の緩斜面上に位置し、調査区の東側は谷に向かって大きく落ち込んでいる。調査地は標高120m前後の傾斜地であり現況は水田・畑である。1993年2月15日から2月18日までの期間に第一次試掘調査が、10月27日28日の二日間で第二次試掘調査が行われた。試掘対象面積は一次調査が89㎡、二次調査が70㎡。合計20基のトレンチを開けた。この結果を踏まえ、遺構が存在するとみられる地点に絞って本調査を行った。本調査は、1994年8月1日から9月22日の間実施された。8月29日掘立柱建物跡検出。9月5日ナイフ形石器出土。9月6日遺構面写真撮影・細石刃核出土。今回の調査では、旧石器時代から近世にわたる時代の遺物が出土した。旧石器10点（県内初出土の細石刃核を含む）石鏃が未製品も含め64点出土している。残念ながら旧石器はすべて元位置をとどめていないため旧石器の遺構を確認するにはいたらなかった。

②基本層序

第1層は暗褐色粘質の耕作土、第2層は黄褐色砂質の床土、第3層灰白色シルト、第4層にぶい黄褐色シルト、第5層褐色シルト（この層の上面が遺構検出面である）、第6層黄褐色シルトの層である。

③発掘調査の方法

調査を始めるにあたり、グリッドの配置は、発掘調査統一基準に倣い、第Ⅳ系国土座標を基準とし、1辺5mを1グリッドとして調査対象地を包み込む形で設定した。南西隅を基準とし、北にA-J、東に1-7の記号をふり、その組み合わせで各グリッドを表すこととした。

(2) 遺構と遺物

土坑

SK1001（第24図）

グリッドH1。長軸58cm短軸57cm深さ28cm。

出土遺物

23は土師質の紡錘車である。ハケ・ミガキが施されていることから土師器の甕を転用したものと思われる。

SK1002（第23図）

グリッドG1。長軸55cm短軸49cm深さ30cm。

出土遺物

24・25は土師器の甕である。

SK1003（第25図）

グリッドG1。長軸51cm短軸50cm深さ21cm。

出土遺物

26は砂岩製の台石である。

SK1004 (第26図)

グリッドH2。主軸方位N84°E。長軸55cm短軸42cm深さ27cm。

出土遺物

27は土師器の甕である。口縁部は内外面に横ナデを施している。

SK1007 (第27図)

グリッドF2。主軸方位N23°W。長軸143cm短軸99cm深さ85cm。

出土遺物

28は土師器の高杯である。外面は丁寧にナデで仕上げられている。29はサヌカイト製の石甌である。

SK1009 (第28図)

グリッドE2。主軸方位N87°E。長軸89cm短軸44cm深さ20cm。

出土遺物

30は結晶片岩製石燈丁の破片である。

柱穴

SP1001 (第29図)

グリッドH2。長軸17cm短軸16cm深さ11cm

出土遺物

31は石英製の敲石である。

包含層出土遺物 (第31～44図)

32・33は縄文土器深鉢(船元I式)の口縁部である。遺存状態が悪く内面の調整は確認できない。34～39は土師器の甕である。34は良好な焼成で含有物も非常に少ない。内面は横ナデが施されている。35は内外面に共に横ナデが施されている。36は良好な焼成で内外面を丁寧にナデで仕上げている。38は良好な焼成で、内外面および口縁端部も強くナデで仕上げられている。40は土師器の台付甕である。算盤玉型の体部の底は直径約5cmの円盤状の部品で作られる。41～48は土師器の甕である。42の口縁裏面には針状工具による沈線が1条施されている。45の内面は剥離のため調整不明である。49～55は土師器の底部である。49・52・53・54の調整は不明である。56～64は土師器高杯の杯部である。いずれも残存率が非常に低い。61と63は焼成が特に良好である。65は土師器高杯の脚上部、67と68は脚端部である。60は結晶片岩を多く含有する。67は硬く焼成されていて結晶片岩を多く含有している。69～72は須恵器である。72は焼成不良である。73は肥前系の染付磁器碗である。見込みを蛇の目釉剥ぎしている。74は備前陶器の無軸灯明皿である。轆轤成形され外面に一部煤が付着している。75は鉄製品である。

76～85までは旧石器時代の遺物である。(第33図)

76～79はナイフ形石器である。サヌカイトを素材としたものが3点、チャート素材としたものが1点の計4点である。76・77は素材となった剥片の打面部と反対側の縁片部に調整加工を施している。正面観はやや切り出し形を呈した二側縁加工のナイフ形石器である。78・79は素材となった剥片の打面部と反対側の縁片の一部に調整加工を施している。正面観は素材の形状を大きく成形しないため、ややパン先状を呈したナイフ形石器である。

80はサヌカイト製の細石刃核である。板状の剥片を分割して利用しており、作業面は剥片の小口面の

片側に固定して剥離している。打面および底面は横方向からの調整が施されている。

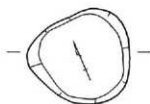
81はサヌカイト製の石核である。板状の剥片を素材としている。剥片剥離の手順はすべてが残存していないため推定になるが、両面加工体を成形するように両側縁から剥離を行っているものと考えられる。

82～85は剥片である。サヌカイト製のものが3点、頁岩製のものが1点の計4点である。82・83は交互剥離状の石核から剥離された横長剥片である。84・85は縦横の比が約1：1のやや寸づまりの剥片である。法量的に見てナイフ形石器の素材として用いられた可能性が高いものである。

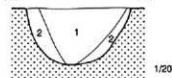
86～149まではサヌカイト製の石鏃である。なお129～132は未製品と考えられる。150～156はサヌカイト製の石鏃である。157～190はサヌカイト製のスクレイパーである。191～195はサヌカイト製の楔形石器である。196～203は加工痕のある剥片である。199は表面の風化が著しい。201はチャート製である。204はサヌカイト製のハンマーである。205は平滑な平面が5面あるサヌカイトである。206は砂質片岩製、207は石英製の敲石である。208は緑色片岩製の、209は緑色岩製の柱状片刃石斧である。210～221は結晶片岩製の石慮丁である。

(3) まとめ

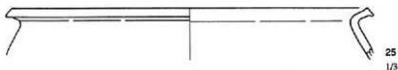
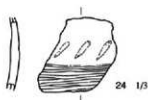
今回の調査では少数ではあるが、弥生時代中期の遺構・遺物が検出された。その結果従来は不明であった城山付近の弥生時代の様相の一端を明らかにすることができた。またそれ以外にも、包含層からの出土ではあるが、縄文時代中期、後期旧石器時代の遺物も出土したことは注目に値する。特に細石刃核は徳島県下初の出土であり、不明であったこの時期の遺物が徳島県でも存在することが明らかにされたことで、今後の旧石器時代の研究を進める上での貴重な資料になるであろう。



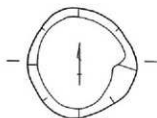
L=117.9m



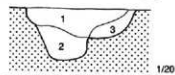
1.灰黄色 2.5Y7/2 シルト質土
2.にぶい黄色 2.5Y6/3 シルト質土



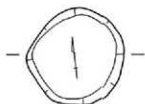
第23図 佐城遺跡 (II) SK1002 遺構図・出土遺物



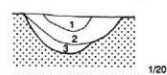
L=117.9m



1.にぶい黄色 2.5Y6/4 シルト質土
2.にぶい黄色 2.5Y6/3 シルト質土
3.にぶい黄褐色 10YR6/4 シルト質土



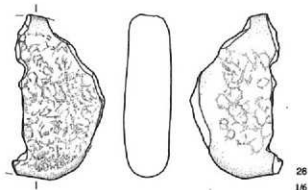
L=117.9m



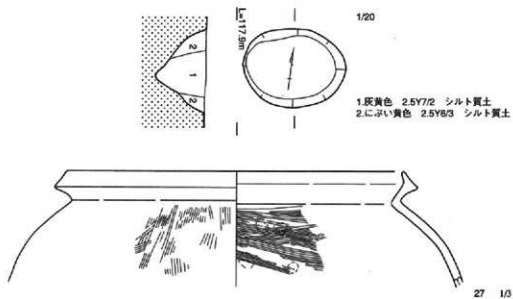
1.灰黄色 2.5Y7/2 シルト質土
2.浅黄色 2.5Y7/3 シルト質土
3.にぶい黄色 2.5Y6/4 シルト質土



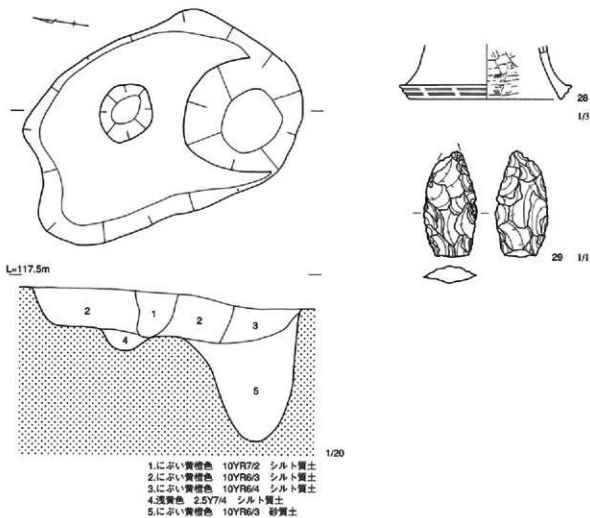
第24図 佐城遺跡 (I)
SK1001 遺構図・出土遺物



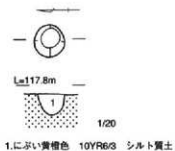
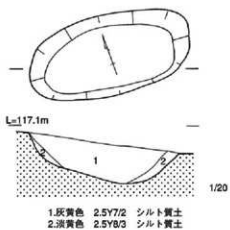
第25図 佐城遺跡 (I)
SK1003 遺構図・出土遺物



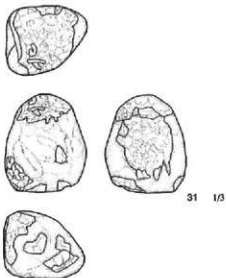
第26図 佐城遺跡 (II) SK1004 遺構図・出土遺物



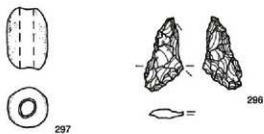
第27図 佐城遺跡 (II) SK1007 遺構図・出土遺物



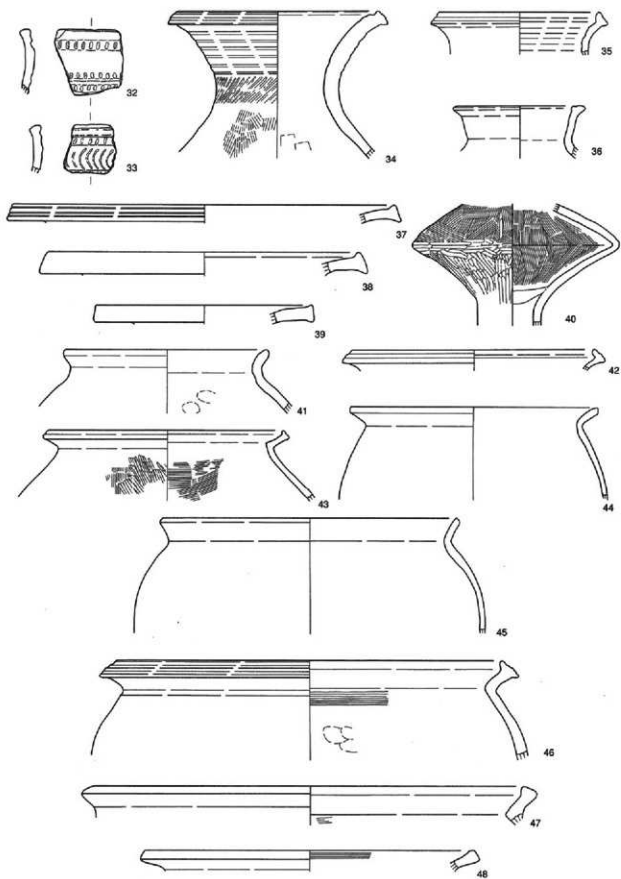
第28図 佐城遺跡 (II) SK1009 遺構図・出土遺物



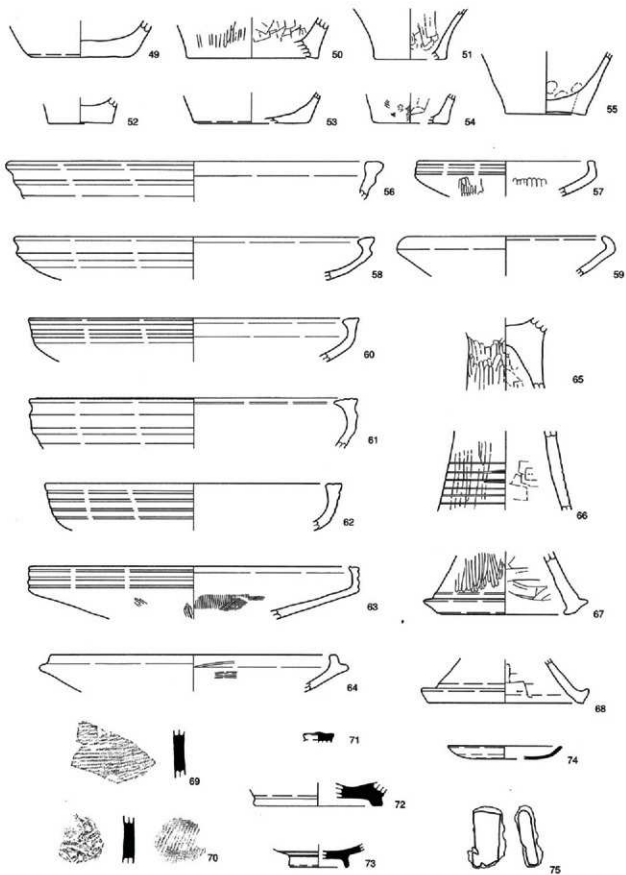
第29図 佐城遺跡 (II) SP1001 遺構図・出土遺物



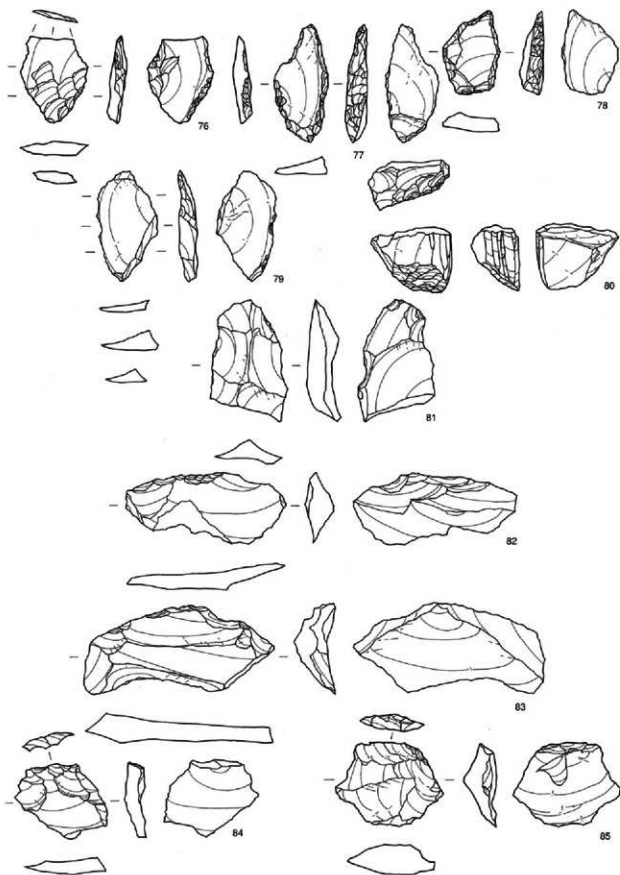
第30図 佐城遺跡 (I) 包含層出土遺物 1/1



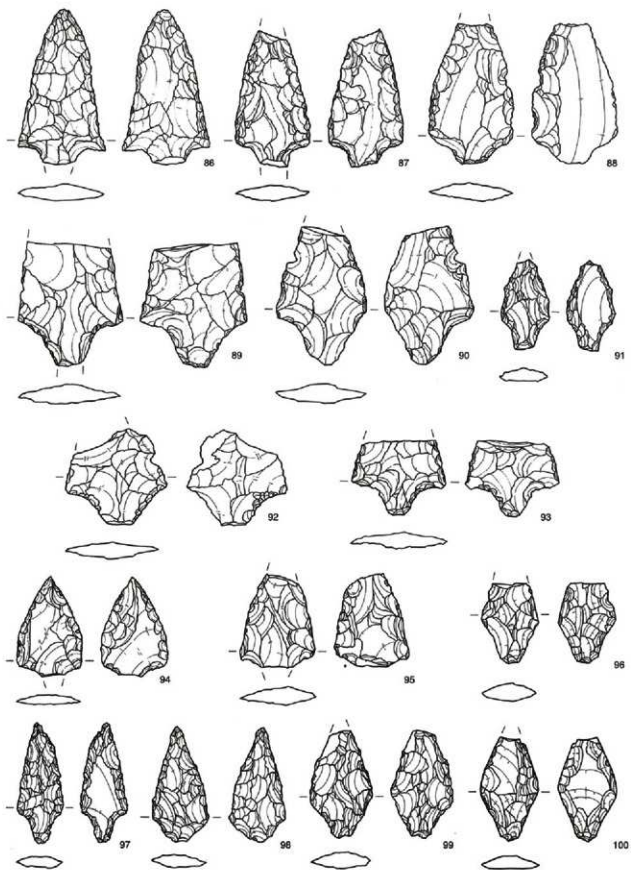
第31図 佐城遺跡(Ⅱ) 包含層出土遺物(1) 1/3



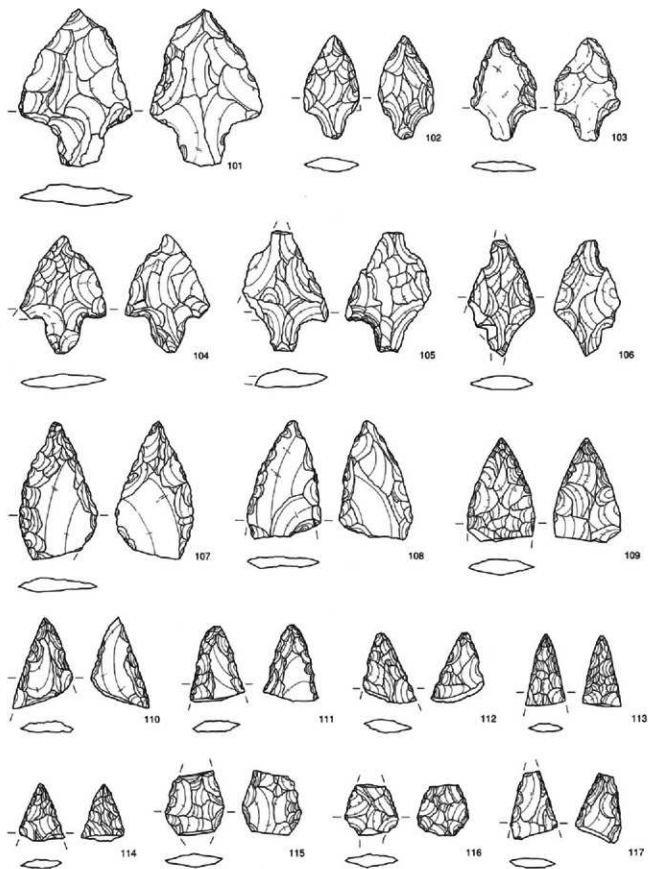
第32図 佐城遺跡Ⅱ 包含層出土遺物(2) 1/3



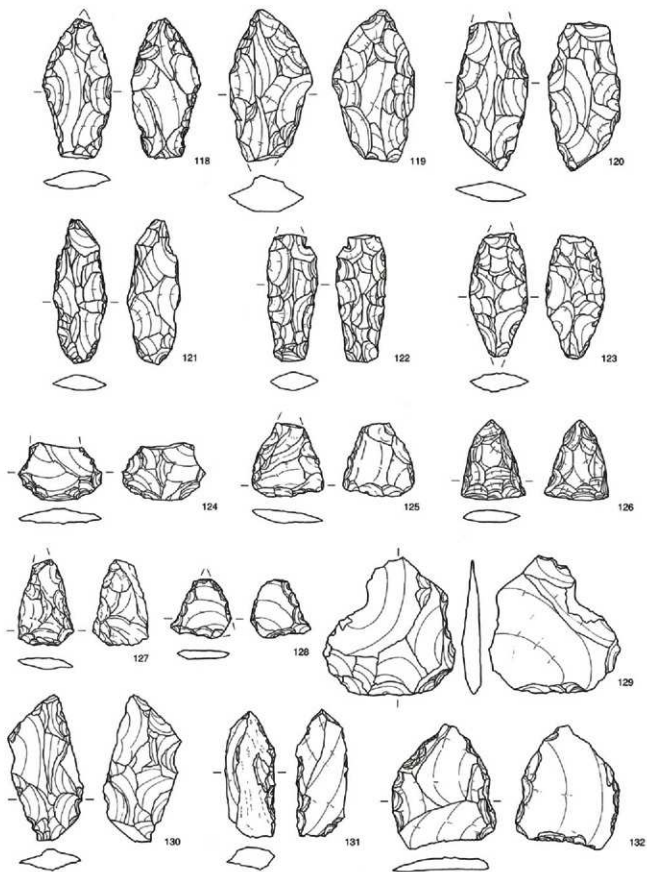
第33図 佐城遺跡 (I) 包含層出土遺物 (3) 1/1



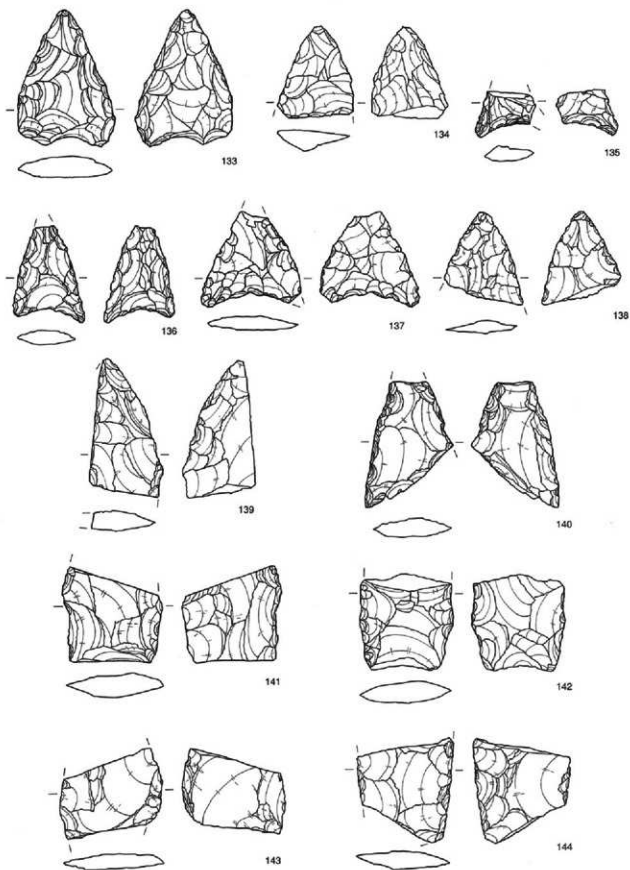
第34圖 佐城遺跡（Ⅱ） 包含層出土遺物（4） 1/1



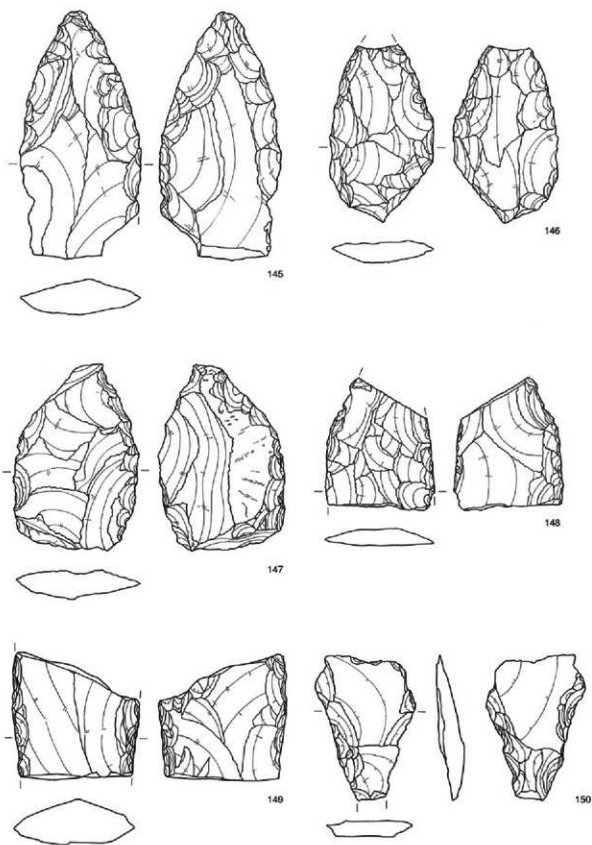
第35図 佐城遺跡(Ⅱ) 包含層出土遺物(5) 1/1



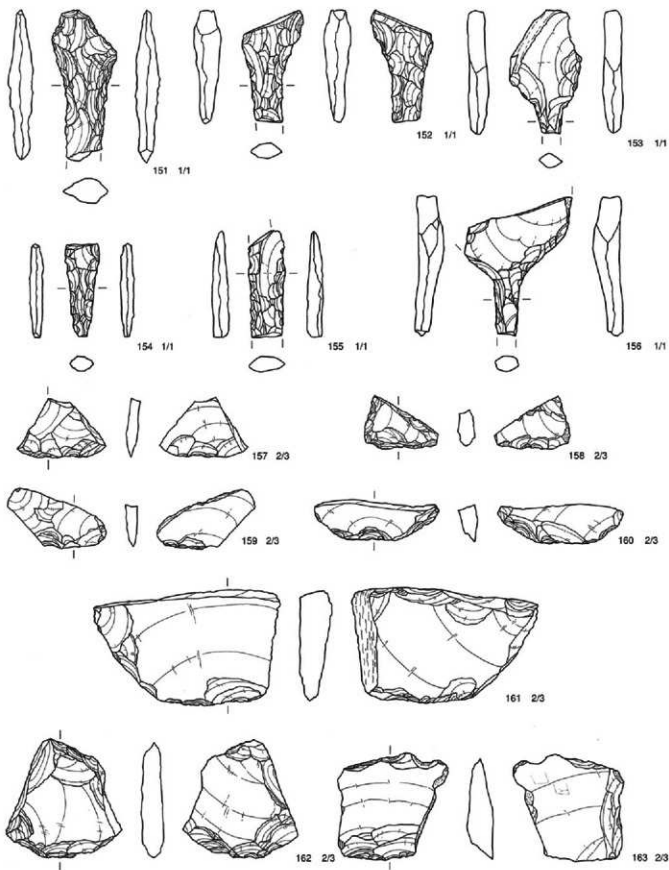
第36圖 佐城遺跡(Ⅱ) 包含層出土遺物(6) 1/1



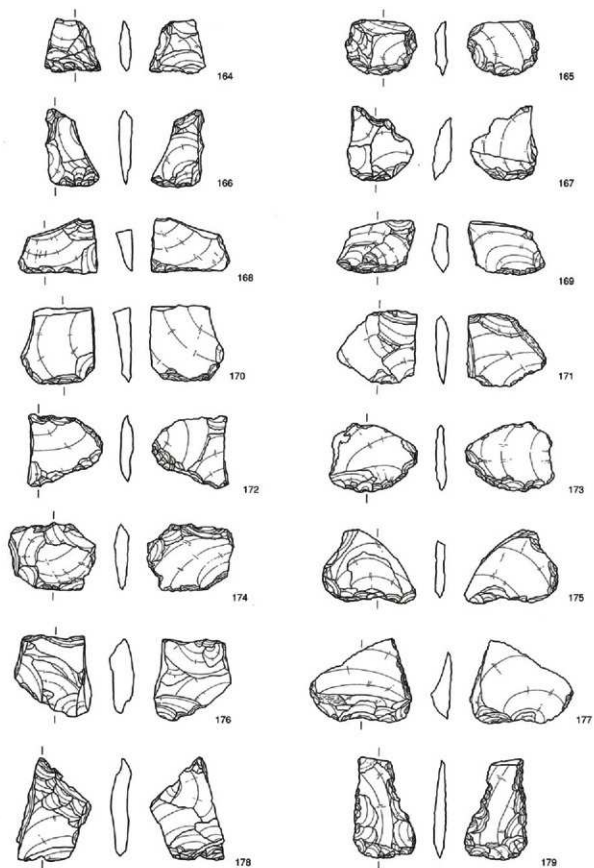
第37図 佐城遺跡(Ⅱ) 包含層出土遺物(7) 1/1



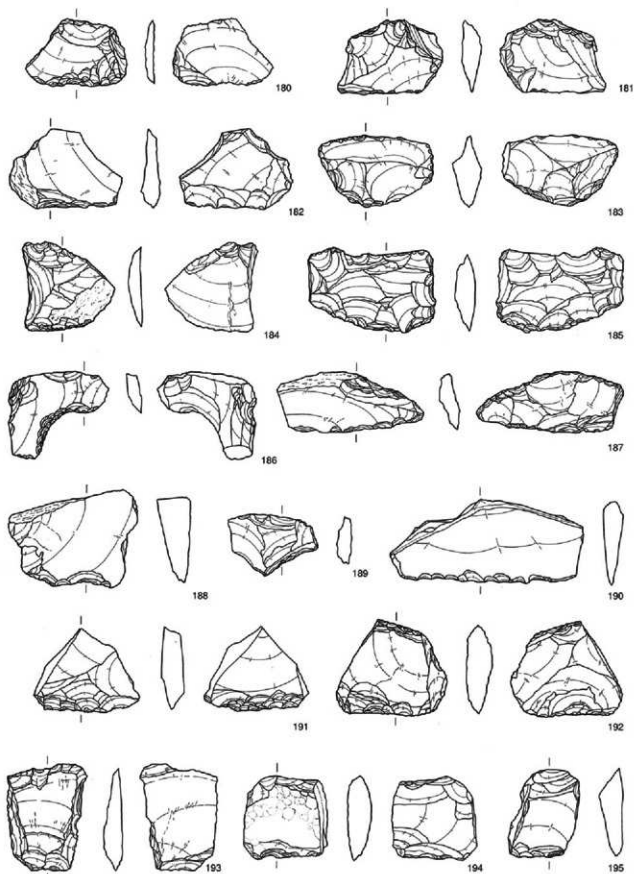
第38圖 佐城遺跡（Ⅱ） 包含層出土遺物（8） 1/1



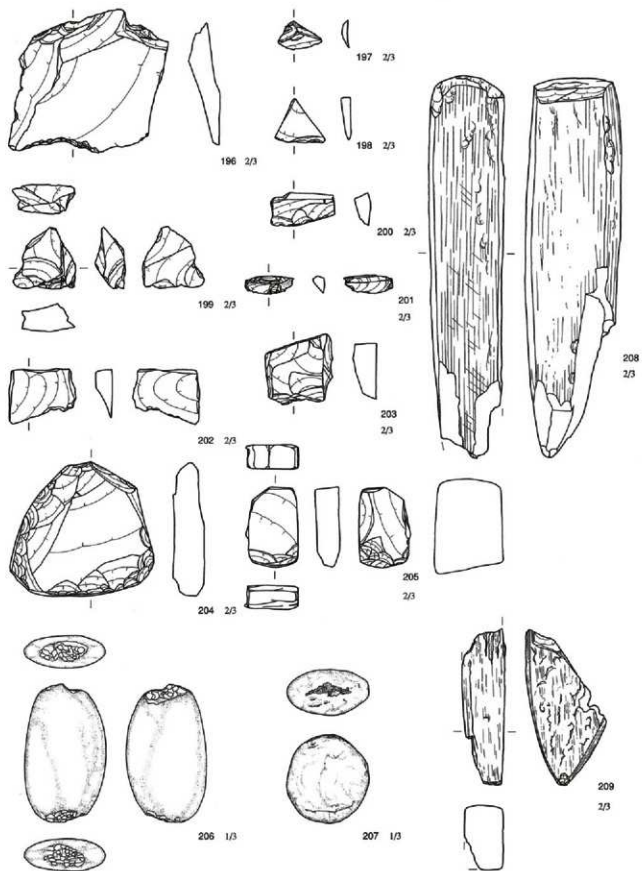
第39図 佐城遺跡 (II) 包含層出土遺物 (9)



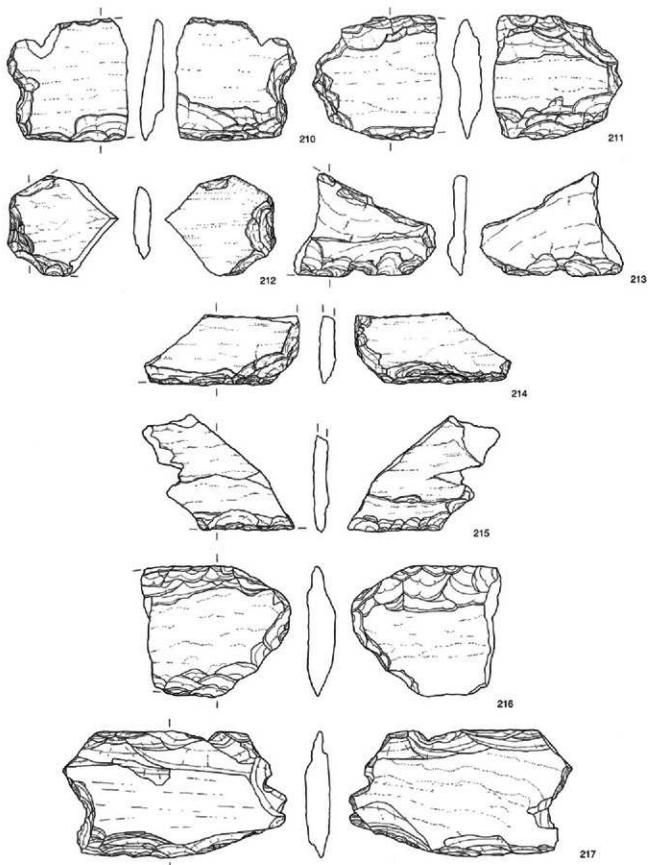
第40圖 佐城遺跡 (Ⅱ) 包含層出土遺物 (10) 2/3



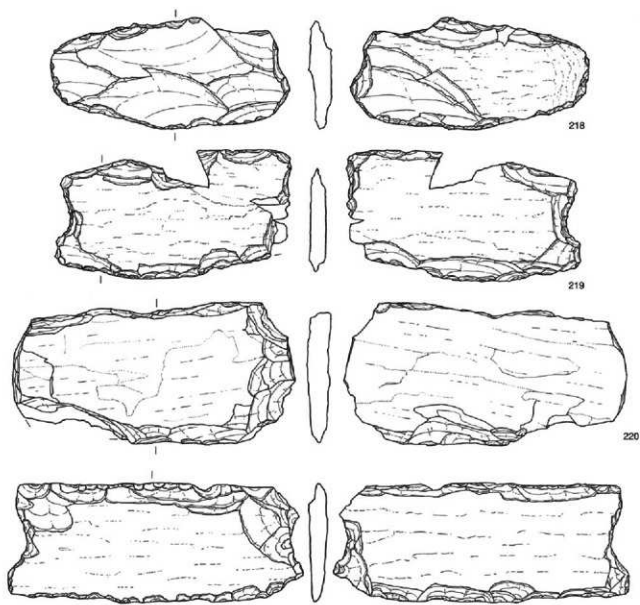
第41图 佐城遺跡(Ⅱ) 包含層出土遺物(11) 2/3



第42図 佐城遺跡(Ⅱ) 包含層出土遺物(12)



第43图 佐城遺跡 (I) 包含層出土物 (13) 2/3



第44圖 佐城遺跡（Ⅱ） 包含層出土遺物（14） 2/3

221

第4表 佐城遺跡(Ⅱ)出土土器観察表(1)

番号	グリッド	遺構	器種	材質	含有物組	法量(cm)	外面調整等	内面調整等	外面色調	内面色調	
23	H1	SK1001	紡錘車	土師器	石英 雲母	長石 片岩	器高 0.5 最大径 4.2 孔径 0.4	ミガキ幅2mm ハケ13条/cm		にぶい橙	にぶい黄橙
24	G1	SK1002	甕	土師器	石英 片岩	長石 雲母		文・ミガキ幅 3mm		橙	橙
25	G1	SK1002	甕	土師器	石英	長石	口径 26.3	ナデ	ナデ	赤褐	明赤褐
27	H2	SK1004	甕	土師器	石英 片岩	長石 雲母	口径 26.7	口縁部ナデ 体部ハケ 7条/cm	口縁部ナデ 体部ユビオ サエ後ハケ 9条/cm	にぶい橙	橙
28	F2	SK1007	高杯	土師器	石英 雲母	長石	底径 11.9	ナデ 凹線2条	ケズリ	にぶい赤褐	にぶい赤褐
32	G1	包含層	深鉢	縄文	石英 片岩	長石		刺突文	不明	黄褐	灰黄
33	FG3	包含層	深鉢	縄文	石英 片岩	長石		口縁部刺突 文・爪形文	不明	黄褐	褐
34	G1	包含層	壺	土師器	石英 雲母	長石 片岩	口径 15.8	2条ナデ 頸部凹線6条 および斜行 する連続 刺突文	口縁部ナデ 頸部ケズリ・ ナデ	赤褐	灰褐
35	B3~4	包含層	壺	土師器	石英 片岩	長石	口径 12.7	ナデ	ナデ	にぶい赤褐	にぶい赤褐
36	G3	包含層	壺	土師器	石英	長石	口径 10.6	口縁部~頸 部ナデ	口縁部~頸 部ナデ	褐	褐灰
37	B4~5	包含層	壺	土師器	石英	長石	口径 30.0	ナデ 菊面 凹線3条	ナデ	にぶい褐	明赤褐
38	H3	包含層	壺	土師器	石英	雲母	口径 24.4	ナデ	ナデ	明赤褐	明赤褐
39	GH1	包含層	壺	土師器	石英	長石	口径 17.1	摩滅し不明 上ハケ8条/cm 体部下 ミガキ幅3mm	摩滅し不明	橙	黄灰
40	G3	包含層	台付壺	土師器	石英	長石	最大径16.5		ハケ8条/cm	明赤褐	黒褐
41	D5~6	包含層	甕	土師器	石英 雲母	長石 片岩	口径 16.2 頸径 15.1	体部ナデ	体部ユビオ サエ後ナデ	浅黄橙	灰白
42		包含層	甕	土師器	石英 片岩	長石	口径 19.2	ナデ	ナデ	赤褐	赤褐
43		包含層	甕	土師器	石英 雲母	長石	口径 18.4 頸径 17.0	口縁部ナデ 体部ハケ9条 /cm後ミガキ 幅2mm	口縁部ナデ 体部ハケ9条 /cm	橙	にぶい橙
44	D5~6	包含層	甕	土師器	石英	長石	口径 19.6	摩滅し不明	摩滅し不明	橙	橙
45	D5~6	包含層	甕	土師器	石英	長石	口径 23.2 頸径 22.4	体部ナデ	摩滅し不明	橙	赤褐
46	E2	包含層	甕	土師器	石英 片岩	長石	口径 30.3	口縁部凹線 4条 体部ナデ	口縁部ナデ 体部ハケ6条 /cm ユビオ サエ	にぶい赤褐	にぶい赤褐
47	D5~6	包含層	甕	土師器	石英 雲母	長石	口径 35.8 頸径 33.8	摩滅し不明	体部ハケ8条 /cm	橙	浅黄
48	G2	包含層	甕	土師器	石英		口径 26.0	ナデ	ハケ5条/cm	にぶい赤褐	にぶい褐
49	D5~6	包含層	壺	土師器	石英	長石	底径 7.8	摩滅し不明	摩滅し不明	橙	橙
50	B4~5	包含層	甕	土師器	石英	長石	底径 10.4	ミガキ幅4mm	ケズリ幅15mm	にぶい橙	灰褐
51	FG1~2	包含層	甕	土師器	石英	長石	底径 5.6	底部摩滅し 不明	ユビオサエ 後ケズリ	橙	にぶい黄褐
52	FG3	包含層	壺	土師器	石英	長石	底径 5.0	摩滅し不明	摩滅し不明	橙	明赤褐
53	B3~4	包含層	甕	土師器	石英	長石	底径 9.3	摩滅し不明	摩滅し不明	黒褐	褐灰

第4表 佐城遺跡(Ⅱ)出土土器観察表(2)

番号	グリッド	遺構	器種	材質	含有物組	法量(cm)	外面調整等	内面調整等	外面色調	内面色調
54	G1~2	包含層	甕	土師器	石英 雲母	底径 5.8	外部ハク7条 /cm	ユビオサエ 後ケズリ	にぶい橙	にぶい黄橙
55	D5~6	包含層	壺	土師器	石英 雲母	底径 6.3	摩滅し不明	ユビオサエ	明赤褐	褐灰
56	GH1~2	包含層	高杯	土師器	石英 雲母	口径 29.3	ナデ	ナデ	にぶい橙	明赤褐
57	D5~6	包含層	高杯	土師器	石英 長石	口径 14.0	ミガキ	ミガキ	にぶい黄橙	にぶい橙
58	H3	包含層	高杯	土師器	石英 片岩	口径 28.5	ナデ	ナデ	黒褐	黄褐
59	E2~3	包含層	高杯	土師器	石英 長石		摩滅し不明	摩滅し不明	灰黄褐	にぶい黄褐
60	DE2~3	包含層	高杯	土師器	石英 雲母	口径 26.3	ナデ	ナデ	赤褐	赤褐
61	D5~6	包含層	高杯	土師器	石英 雲母	口径 26.2	ナデ	ナデ	灰黄褐	褐灰
62	D5~6	包含層	高杯	土師器	石英 雲母	口径 23.6	ナデ凹線4条	ナデ 端面凹線2条	橙	橙
63	G3	包含層	高杯	土師器	石英 長石	口径 25.9	口縁部凹線 3条 体部ミガ キ幅1.5mm	口縁部凹 線1条 体部 ハケ9条/cm	明赤褐	にぶい赤褐
64	G3	包含層	高杯	土師器	石英 長石	口径 22.8	ナデ	ナデ・ハケ 6条/cm	明赤褐	明赤褐
65	B4~5	包含層	高杯	土師器	石英 長石	最大径 5.8	ミガキ幅4mm	後ケズリ幅 1cm	にぶい赤褐	にぶい赤褐
66	G1~2	包含層	高杯	土師器	石英 長石		ミガキ幅4mm 後露杖工具 による沈線	ケズリ幅9mm	赤褐	赤褐
67	D5~6	包含層	高杯	土師器	石英 長石	底径 10.5	ミガキ幅 2.5mm 脚底部ナデ	ケズリ幅11mm 脚底部ケズリ 幅11mm	褐	黒褐
68	E2	包含層	高杯	土師器	石英 長石	底径 12.3	ナデ	脚部ケズリ 脚下部ナデ	明赤褐	明赤褐
69	B4~5	包含層	甕	須恵器	石英 長石		タタキ	ナデ	灰白	灰白
70	G1	包含層	不明	須恵器	石英 長石		タタキ 後カキメ	青海波紋	黄灰	黄灰
71		包含層	蓋	須恵器	石英 砂粒	つまみ径 2.4	回転ナデ		灰	
72		包含層	壺	須恵器	長石	底径 10.2 高台高 0.6	回転ナデ	回転ナデ	灰白	黄灰
73	EF1	包含層	碗	磁器		底径 4.4 高台高 1.0	畳付無輪圍 線	蛇の目輪調 ぎ	灰白 圍 線にぶい青	灰白
74	B4~5	包含層	灯明皿	陶器		口径 8.9 器高 1.1 最大径 9.0	回転ナデ	回転ナデ	にぶい赤褐	赤褐

第5表 佐城遺跡(Ⅱ)出土石器・玉観察表(1)

番号	グリッド	遺構	器種	石材	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	備考
26	G1	SK1003	合石	砂岩	261.0	(132.1)	74.0	3,800	
29	F2	SK1007	石鎌	サヌカイト	(28.6)	14.2	4.4	1.7	先端欠損
30	E2	SK1009	石向丁	結晶片岩	(15.3)	(36.9)	(3.1)	3.0	
31	H2	SP1001	礫石	石英	78.0	65.1	54.0	339.0	
76	DE5~6	包含層	ナイフ形石器	サヌカイト	(23.1)	17.6	4.2	1.7	旧石器
77	FG2	包含層	ナイフ形石器	サヌカイト	31.7	14.0	5.2	2.2	旧石器
78		包含層	ナイフ形石器	チャート	22.3	15.1	6.3	2.3	旧石器
79	D5~6	包含層	ナイフ形石器	サヌカイト	29.5	16.1	5.0	1.9	旧石器
80		包含層	細石刃核	サヌカイト	17.5	21.5	12.5	5.5	旧石器
81	E5~6	包含層	石核	サヌカイト	32.5	20.8	6.4	4.3	旧石器
82	H3	包含層	横長剥片	サヌカイト	19.1	42.2	7.4	4.2	旧石器
83	G1~2	包含層	横長剥片	サヌカイト	23.5	50.1	8.0	8.7	旧石器
84	G1	包含層	剥片	頁岩	20.7	23.9	4.4	2.8	旧石器
85		包含層	剥片	サヌカイト	22.3	26.5	8.3	4.2	旧石器
86		包含層	石鎌	サヌカイト	(41.6)	23.3	4.5	3.8	基部欠損
87	B3~4	包含層	石鎌	サヌカイト	(36.9)	19.7	4.3	3.3	先端及基部欠損
88		包含層	石鎌	サヌカイト	(37.9)	22.6	4.7	4.3	先端欠損
89	EF1	包含層	石鎌	サヌカイト	(33.2)	26.3	5.4	5.2	先端及基部欠損
90	B3~4	包含層	石鎌	サヌカイト	(36.9)	23.7	5.2	3.6	先端欠損
91	D5~6	包含層	石鎌	サヌカイト	(24.2)	13.0	3.8	1.1	先端欠損
92	EF2~3	包含層	石鎌	サヌカイト	(26.1)	27.2	5.1	2.5	先端欠損
93	DE5~6	包含層	石鎌	サヌカイト	(20.2)	24.8	4.4	2.0	先端欠損
94	EF1	包含層	石鎌	サヌカイト	(27.1)	17.7	2.1	1.3	基部欠損
95	FG1~2	包含層	石鎌	サヌカイト	(24.8)	19.8	4.6	2.4	先端及基部欠損
96	FG1~2	包含層	石鎌	サヌカイト	(21.0)	15.1	5.1	1.4	先端欠損
97	F2~3	包含層	石鎌	サヌカイト	31.5	12.3	3.2	1.0	
98	D5~6	包含層	石鎌	サヌカイト	31.0	14.9	3.5	1.4	
99	TP5	包含層	石鎌	サヌカイト	(28.8)	16.3	4.2	1.9	先端欠損
100	B4~5	包含層	石鎌	サヌカイト	(27.8)	15.2	3.5	1.4	先端欠損
101	D5~6	包含層	石鎌	サヌカイト	42.1	29.9	4.9	5.6	
102	EF1	包含層	石鎌	サヌカイト	27.8	14.5	3.9	1.3	
103	EF1~3	包含層	石鎌	サヌカイト	27.8	17.6	2.9	1.5	
104	F2	包含層	石鎌	サヌカイト	31.2	(22.2)	4.0	2.1	一部欠損
105	EF1	包含層	石鎌	サヌカイト	(31.9)	(22.3)	5.1	2.8	二ヶ所欠損
106	EF1	包含層	石鎌	サヌカイト	(31.0)	(17.2)	3.8	1.9	一部欠損
107	EF2~3	包含層	石鎌	サヌカイト	(36.9)	20.2	4.2	3.3	基部欠損
108	B3~4	包含層	石鎌	サヌカイト	(31.4)	19.0	3.2	1.9	基部欠損
109		包含層	石鎌	サヌカイト	(27.4)	17.6	4.3	1.8	基部欠損
110	EF2	包含層	石鎌	サヌカイト	(24.2)	(15.3)	3.1	1.0	基部欠損
111	G1	包含層	石鎌	サヌカイト	(19.8)	(14.0)	2.7	0.8	基部欠損
112	D5~6	包含層	石鎌	サヌカイト	(18.2)	(14.2)	3.5	0.6	基部欠損
113	GH1~2	包含層	石鎌	サヌカイト	(18.9)	(10.2)	2.1	0.4	基部欠損
114	E2	包含層	石鎌	サヌカイト	(15.3)	(11.8)	2.3	0.3	基部欠損
115	GH1~2	包含層	石鎌	サヌカイト	(17.1)	15.5	3.3	1.0	先端及基部欠損
116		包含層	石鎌	サヌカイト	(13.8)	14.0	3.7	0.7	先端及基部欠損
117		包含層	石鎌	サヌカイト	(18.6)	(12.0)	2.6	0.5	先端及基部欠損
118	G1~2	包含層	石鎌	サヌカイト	(36.9)	18.3	4.8	3.3	先端欠損
119	G1~2	包含層	石鎌	サヌカイト	(40.4)	21.4	9.6	7.3	基部欠損
120	FG3	包含層	石鎌	サヌカイト	(39.5)	18.5	5.1	3.9	先端欠損
121	DE2~3	包含層	石鎌	サヌカイト	38.4	14.2	4.1	2.0	
122	G1~2	包含層	石鎌	サヌカイト	(33.4)	13.1	5.0	2.2	先端欠損
123	G1	包含層	石鎌	サヌカイト	(32.7)	15.4	4.7	2.4	先端及基部欠損
124	FG1~2	包含層	石鎌	サヌカイト	(15.0)	22.4	3.9	1.6	先端欠損
125	D5~6	包含層	石鎌	サヌカイト	(19.8)	18.9	3.4	1.5	先端欠損
126	D5~6	包含層	石鎌	サヌカイト	21.0	16.9	3.2	1.1	
127	FG1~2	包含層	石鎌	サヌカイト	(23.2)	14.9	3.1	1.4	先端欠損
128	EF1	包含層	石鎌	サヌカイト	(16.2)	(16.1)	2.6	0.7	先端欠損

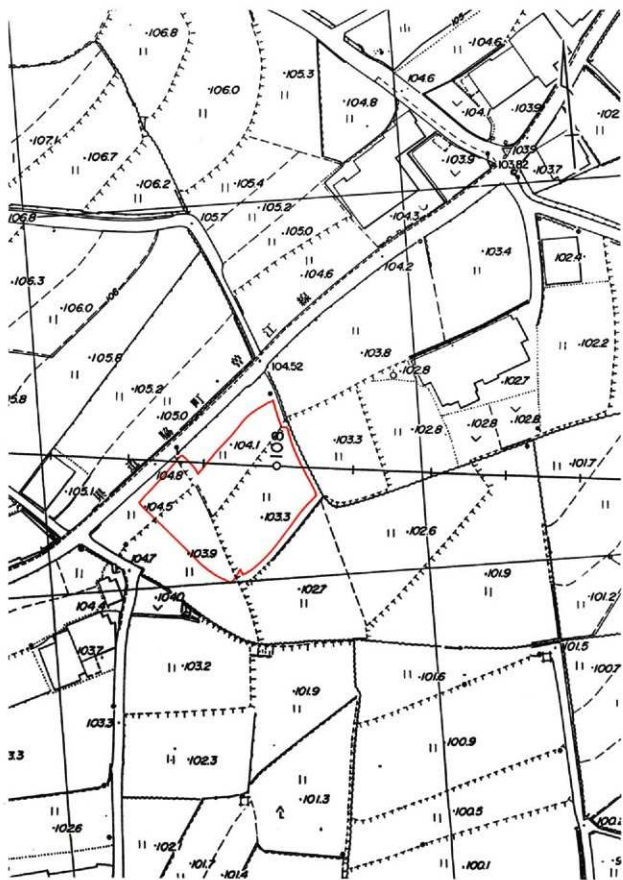
第5表 佐城遺跡(Ⅱ)出土石器・玉観察表(2)

番号	グリッド	遺構	器種	石材	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	備考
129	B4~5	包含層	石鏃未製品	サヌカイト	36.8	34.8	4.8	5.7	
130	G3	包含層	石鏃未製品	サヌカイト	38.9	19.5	5.8	3.7	
131	G1~2	包含層	石鏃未製品	サヌカイト	33.5	13.3	5.8	2.7	
132	B4~5	包含層	石鏃未製品	サヌカイト	33.1	27.2	3.2	3.4	
133	I2~3	包含層	石鏃	サヌカイト	36.6	25.4	5.8	4.8	先端欠損
134	D5~6	包含層	石鏃	サヌカイト	(24.2)	(20.3)	5.5	2.1	基部欠損
135	EF1	包含層	石鏃	サヌカイト	(12.1)	(15.6)	4.4	0.6	先端及基部欠損
136	B4~5	包含層	石鏃	サヌカイト	(25.8)	13.3	3.8	1.6	先端欠損
137	B4~5	包含層	石鏃	サヌカイト	(25.4)	(26.1)	3.9	2.2	先端及基部欠損
138	EF2~3	包含層	石鏃	サヌカイト	(24.9)	(21.2)	3.5	1.3	基部欠損
139	B3~4	包含層	石鏃	サヌカイト	(37.2)	(19.4)	4.8	3.9	欠損
140	G1	包含層	石鏃	サヌカイト	(33.1)	(23.2)	5.2	3.7	先端及基部欠損
141	D5~6	包含層	石鏃	サヌカイト	(25.3)	26.1	6.7	4.9	先端欠損
142	EF1~3	包含層	石鏃	サヌカイト	(25.4)	23.5	5.5	4.1	先端欠損
143	G1	包含層	石鏃	サヌカイト	(23.2)	27.2	3.9	3.1	先端及基部欠損
144		包含層	石鏃	サヌカイト	(27.4)	(25.6)	4.8	36.4	先端及基部欠損
145		包含層	石鏃	サヌカイト	(65.3)	31.9	9.4	19.5	基部欠損
146	FG2	包含層	石鏃	サヌカイト	(47.2)	27.5	5.6	7.6	先端欠損
147	F2~3	包含層	石鏃	サヌカイト	32.8	49.2	7.4	14.4	
148	B4~5	包含層	石鏃	サヌカイト	(34.6)	28.6	4.5	7.0	先端及基部欠損
149	D5~6	包含層	石鏃	サヌカイト	(33.2)	33.6	12.2	17.7	先端及基部欠損
150	FG1~2	包含層	石鏃	サヌカイト	(38.2)	26.2	4.2	5.6	一部欠損
151		包含層	石鏃	サヌカイト	(40.0)	16.5	6.1	3.1	一部欠損
152	EF1	包含層	石鏃	サヌカイト	(29.1)	16.2	4.2	2.1	一部欠損
153	FG3	包含層	石鏃	サヌカイト	(34.2)	19.1	4.0	3.3	一部欠損
154	EF1~3	包含層	石鏃	サヌカイト	24.8	9.0	3.8	0.9	
155	E2~3	包含層	石鏃	サヌカイト	(28.1)	10.1	4.1	1.4	一部欠損
156	E5~6	包含層	石鏃	サヌカイト	(37.2)	(28.2)	4.5	4.9	一部欠損
157	EF2	包含層	スクレイパー	サヌカイト	23.4	35.2	5.6	4.2	
158	F2~3	包含層	スクレイパー	サヌカイト	21.0	29.3	6.3	4.0	
159		包含層	スクレイパー	サヌカイト	23.7	38.8	4.8	3.7	
160	EF1	包含層	スクレイパー	サヌカイト	15.9	49.3	7.3	6.0	
161	EF1~3	包含層	スクレイパー	サヌカイト	46.2	73.2	12.5	51.5	
162	G1~2	包含層	スクレイパー	サヌカイト	47.1	44.8	8.0	22.6	
163	G1	包含層	スクレイパー	サヌカイト	42.3	43.7	9.8	21.0	
164	B4~5	包含層	スクレイパー	サヌカイト	21.6	22.3	4.1	2.6	
165	B4~5	包含層	スクレイパー	サヌカイト	22.1	28.2	4.2	3.4	
166	E5~6	包含層	スクレイパー	サヌカイト	30.5	21.2	4.8	3.0	
167	F1	包含層	スクレイパー	サヌカイト	29.4	26.2	7.1	5.1	
168		包含層	スクレイパー	サヌカイト	21.5	31.2	6.1	4.9	
169	B4~5	包含層	スクレイパー	サヌカイト	20.3	30.2	5.8	3.7	
170	EF1	包含層	スクレイパー	サヌカイト	30.2	29.1	6.6	7.4	
171	CD5	包含層	スクレイパー	サヌカイト	29.5	31.0	4.5	5.5	
172	GH1~2	包含層	スクレイパー	サヌカイト	28.2	29.5	5.0	4.5	
173	G3	包含層	スクレイパー	サヌカイト	27.1	34.9	3.6	4.2	
174	D5~6	包含層	スクレイパー	サヌカイト	26.5	34.5	5.4	5.4	
175	D5~6	包含層	スクレイパー	サヌカイト	37.1	28.8	3.9	5.2	
176	FG1~2	包含層	スクレイパー	サヌカイト	31.9	30.3	9.6	11.1	
177	D5~6	包含層	スクレイパー	サヌカイト	33.1	40.2	7.8	10.4	
178	B3~4	包含層	スクレイパー	サヌカイト	40.8	29.6	7.2	9.5	
179	B4~5	包含層	スクレイパー	サヌカイト	40.1	24.2	4.4	4.9	
180	FG2	包含層	スクレイパー	サヌカイト	26.9	39.6	3.4	5.0	
181	D5~6	包含層	スクレイパー	サヌカイト	29.8	41.6	7.6	9.0	
182	G1	包含層	スクレイパー	サヌカイト	31.9	44.6	7.2	11.1	
183	G1~2	包含層	スクレイパー	サヌカイト	28.7	45.2	12.1	11.5	
184	EF2~3	包含層	スクレイパー	サヌカイト	34.8	36.4	6.0	7.7	
185		包含層	スクレイパー	サヌカイト	33.8	50.9	8.1	15.3	

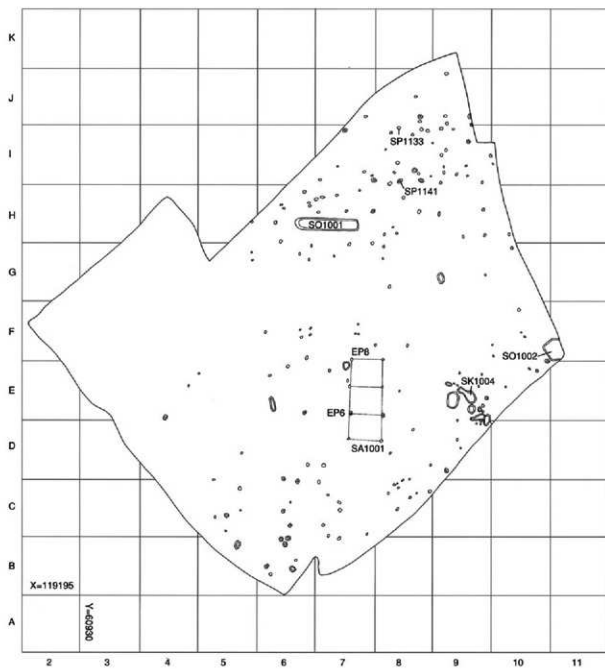
第5表 佐城遺跡(Ⅱ)出土石器・玉観察表(3)

番号	グリッド	遺構	器種	石材	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	備考
186	DE5~6	包含層	スクレイパー	サヌカイト	34.5	39.1	5.5	8.9	
187	F2	包含層	スクレイパー	サヌカイト	24.1	58.2	7.8	11.5	
188	F1	包含層	スクレイパー	サヌカイト	38.8	50.4	13.2	26.1	
189	G1	包含層	スクレイパー	サヌカイト	35.5	24.9	5.7	4.6	
190	B3~4	包含層	スクレイパー	サヌカイト	32.9	76.2	7.6	21.1	
191	G3	包含層	楔形石器	サヌカイト	33.5	41.5	9.0	12.9	
192	EF2	包含層	楔形石器	サヌカイト	43.9	37.8	10.0	19.9	
193	EF1	包含層	楔形石器	サヌカイト	41.6	30.7	7.5	11.3	
194	EF1	包含層	楔形石器	サヌカイト	32.5	34.1	9.4	12.2	
195	EF1~3	包含層	楔形石器	サヌカイト	34.6	28.5	9.1	9.8	
196	G1~2	包含層	剥片	サヌカイト	56.8	64.2	9.5	35.5	
197		包含層	剥片	サヌカイト	11.3	17.3	2.8	0.3	
198	G1	包含層	剥片	サヌカイト	17.9	20.4	3.9	0.9	
199	G1	包含層	剥片	サヌカイト	24.5	24.7	10.2	5.7	
200	G1~2	包含層	剥片	サヌカイト	13.5	25.1	6.5	2.8	
201		包含層	剥片	チャート	19.0	7.2	4.5	3.3	
202	EF1	包含層	剥片	サヌカイト	21.9	26.5	6.9	4.0	
203	D5~6	包含層	剥片	サヌカイト	28.4	26.2	9.5	9.9	
204	D5~6	包含層	ハンマー	サヌカイト	53.1	56.8	12.2	61.4	
205	EF1	包含層	不明	サヌカイト	31.9	20.5	9.3	11.0	
206	H3	包含層	融石	砂質片岩	109.5	64.4	26.4	292.0	石鏢の可能性あり
207	E2~3	包含層	融石	石英	70.4	64.9	36.3	222.0	
208	F2~3	包含層	柱状片刃石斧	緑色片岩	(151.6)	37.7	29.3	324.0	先端欠損
209	F2~3	包含層	柱状片刃石斧	緑色岩	(61.7)	(28.7)	(16.8)	40.5	先端部以外欠損
210	FG1~2	包含層	石胞丁	結晶片岩	49.9	(47.8)	9.1	26.0	一部欠損
211	B4~5	包含層	石胞丁	結晶片岩	49.5	51.0	11.5	38.1	一部欠損
212	G1	包含層	石胞丁	結晶片岩	(39.8)	(43.9)	(6.2)	15.6	一部欠損
213	G1~2	包含層	石胞丁	結晶片岩	(40.8)	(51.1)	7.1	16.8	一部欠損
214	B4~5	包含層	石胞丁	結晶片岩	(28.1)	(61.2)	(6.3)	17.5	一部欠損
215	EF2~3	包含層	石胞丁	結晶片岩	45.1	(59.9)	5.2	15.0	一部欠損
216	B3~4	包含層	石胞丁	結晶片岩	52.1	(59.1)	11.5	50.6	一部欠損
217	E5~6	包含層	石胞丁	結晶片岩	50.5	88.1	9.4	60.8	
218	G1~2	包含層	石胞丁	結晶片岩	44.2	94.0	9.2	47.8	
219	EF1	包含層	石胞丁	結晶片岩	51.3	93.2	6.5	54.8	
220	G1~2	包含層	石胞丁	結晶片岩	56.9	111.6	9.4	93.2	
221	G3	包含層	石胞丁	結晶片岩	48.5	116.4	7.6	68.9	
296		包含層	石鏢	サヌカイト	19.2	(10.3)	(2.4)	0.4	一部欠損
297		包含層	碧玉	ガラス	16.2	10.9		3.1	強い赤

4 鶴射遺跡



第45圖 鶴射遺跡調査地点 S=1/1000



第46図 観射遺跡遺構配置図

(1) 調査の経過

①遺跡の位置

阿讃山脈南麓に発達した標高100mほどの段丘面のほぼ中央部に位置している。段丘の東は曾江谷川、西は大谷川によって侵食されそれぞれ深い谷を形成している。南側も段丘崖が発達し、吉野川の沖積地との比高差は約40mある。現況はテラス状の水田になっているが本来は北西から南東に向かう緩傾斜の地形である。1987年に実施された分布調査によって4,600㎡が調査対象面積とされ、1993年4月5日～19日及び1994年1月4日～19日に試掘調査を実施した。分布調査では土師器片・須恵器片・サヌカイト片を採取している。

②基本層序

第1層は灰オリーブ色粘質の耕作土、第2層は浅黄色粘質の床土。第3層はマンガン粒を含む浅黄色のシルト質土。第4層が浅黄色の砂質土の層である。この層の上面が遺構検出面である。

③発掘調査の方法

調査を始めるにあたり、グリッドの配置は、発掘調査統一基準に倣い、第Ⅳ系国土座標を基準とし、1辺5mを1グリッドとして調査対象地を包み込む形で設定した。南西隅を基準とし、北にA～K、東に2～11の記号をふり、その組み合わせで各グリッドを表すこととした。

各トレンチの層序・出土遺物より、現況の水田を造成した際に、かなりの削平を受けているが、遺構面も一部に残っている。この部分について本調査を実施した。

(2) 遺構と遺物

掘立柱建物跡

SA1001 (第47図)

グリッドD7からF8に跨り柱穴8基(EP1～EP8)で構成される。棟方位N1°E。桁行3間(694cm)×梁間1間(271cm)。柱間は桁間243cm～221cm。柱穴の直径は22cm～35cm、深さは13cm～36cmである。EP1には柱痕が認められた。

出土遺物 (第52図)

EP6より胎土に石英を多く含有する土師質の釜223が出土。EP8からは土師質の碗222が出土している。

炭窯跡

SO1001 (第48図)

グリッドH6・H7に跨る。主軸方位N89°W。長軸508cm短軸104cm深さ24cm。

出土遺物 (第49図)

224は土師質の皿である。225と226は土師質の碗である。227は両面炭素吸着処理した黒色土器碗である。内面に針状工具による線刻が施されている。

SO1002 (第54図)

グリッドE11・F11に跨る。軸長等は、遺構の大半が調査区外のため不明。

出土遺物

228は黒色土器碗である。229は土師質の杯である。底部を回転ヘラ切りしている。

土坑

SK1004 (第53図)

グリッドE9。主軸方位N54°W。長軸181cm短軸80cm深さ14cm。

出土遺物

230・231は土師質の杯である。表面は摩滅し調整不明である。232は須恵器の壺である。内外面とも回転ナデを施している。

柱穴

SP1133 (第50図)

グリッドF8。長軸21cm短軸19cm深さ14cm。

出土遺物 (第51図)

301は黒色土器の碗である。

SP1141 (第55図)

グリッドF8。長軸41cm短軸33cm深さ17cm。

出土遺物

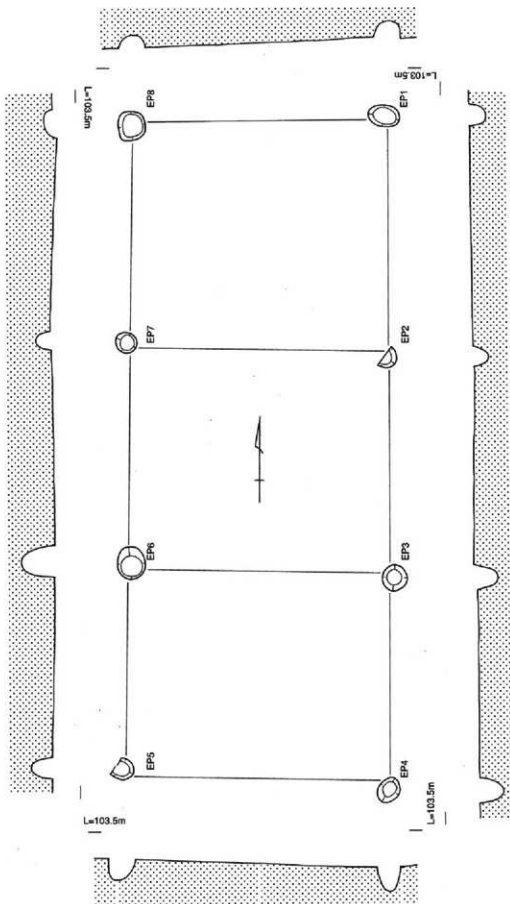
233は土師質の碗である。内外面ともに回転ナデにより仕上げられている。

包含層出土遺物 (第56図)

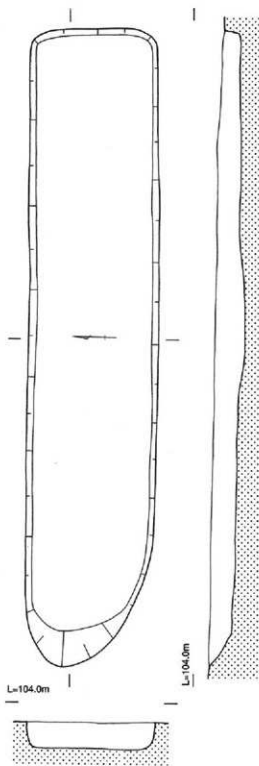
234は土師質の鍋の口縁部である。内外面ともにナデが施されている。235は土師質の土錘である。236と237は旧石器時代の遺物である。236は翼状剥片を素材とした国府型ナイフ形石器である。石材はサヌカイトである。調整加工は石器の上半部を中心に行っており、下半部は素材の打面部分を生かしている。237は翼状剥片の緑片部に細かい調整を施したスクレイパーである。素材の打面部分は除去されており、上端部には自然面が残されている。石材はサヌカイトである。

(3) まとめ

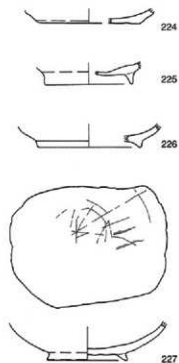
今回の調査で出土した遺物は旧石器時代のもの以外は、包含層出土遺物、遺構出土遺物ともに平安時代中期に属するものが殆どであった。このことから本遺跡は平安時代中期の比較的短時間に形成された集落跡と考えられる。それまでの律令制が崩壊する過程で新たな新田開発が行われ、山林原野から公田・荘園が生み出されたが、このような時代背景を元に新たに生み出された集落である可能性が高い。また旧石器時代の二点の遺物は、この段丘上にその時代の遺跡が存在したことを証明している。



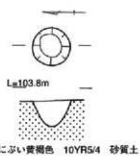
第47図 鋼射線跡 SA1001 透構図 1/40



第48図 鶴射遺跡SO1001遺構図 1/30



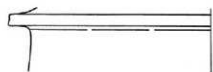
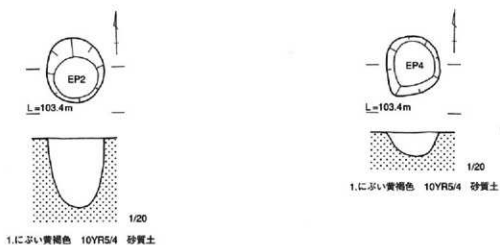
第49図 鶴射遺跡SO1001 出土遺物 1/3



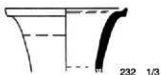
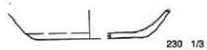
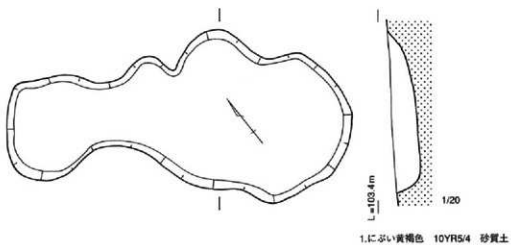
第50図 鶴射遺跡SP1133遺構図 1/20



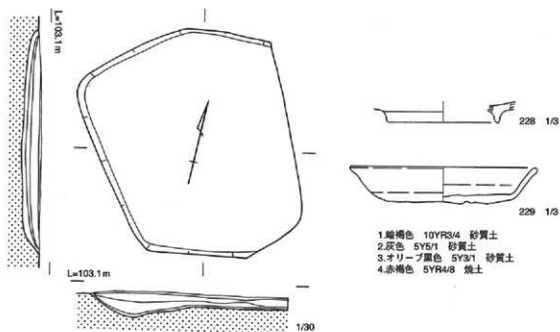
第51図 鶴射遺跡SP1133遺構図 1/3



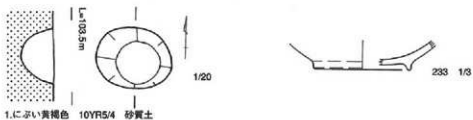
第52図 鶴射遺跡SA1001(EP2・EP4) 遺構図・出土遺物



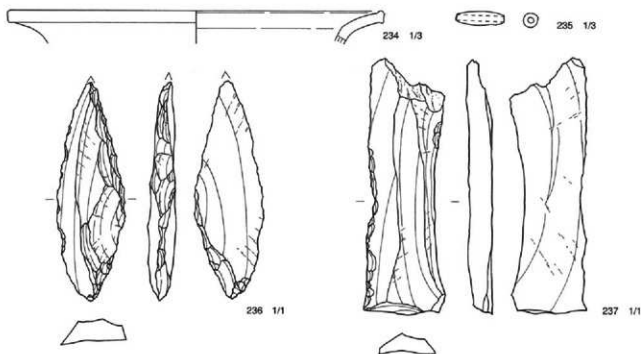
第53図 鶴射遺跡SK1004遺構図・出土遺物



第54図 鶴射遺跡SO1002遺構図・出土遺物



第55図 鶴射遺跡SP1141遺構図・出土遺物



第56図 鶴射遺跡 包含層 出土遺物

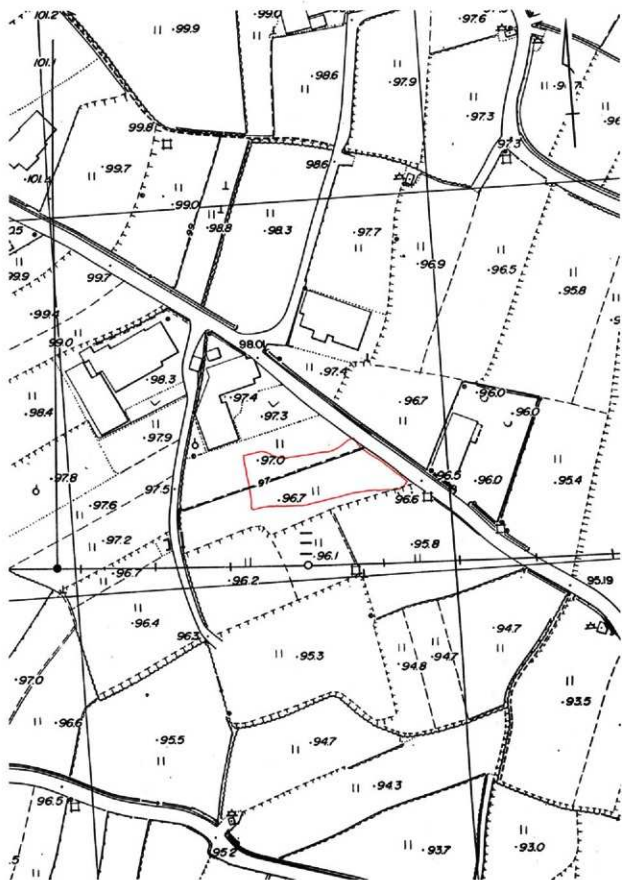
第6表 鶴射遺跡出土土器観察表

番号	グリッド	遺構	器種	材質	含有物組	法量(cm)	外面調整等	内面調整等	外面色調	内面色調
222	F7	SA1001-EP8	碗	土師質	石英 長石 雲母	底径 6.9 高台高 0.5	摩滅し不明	摩滅し不明	明赤褐	にぶい赤褐
223	E7	SA1001-EP6	釜	土師質	石英 長石 雲母	最大径32.2	ナデ	ナデ	褐灰	黄褐
224	H7	SO1001	皿	土師質	石英 長石 雲母	底径 8.0	回転ナデ	回転ナデ	橙	にぶい橙
225	H7	SO1001	碗	土師質	石英 長石 雲母	底径 6.9 高台高 0.8	回転ナデ	回転ナデ	にぶい橙	にぶい褐
226	H7	SO1001	碗	土師質	長石	底径 8.2 高台高 0.5	摩滅し不明	摩滅し不明	明赤褐	灰
227	H7	SO1001	碗	黒色土器	石英 長石	底径 6.2 高台高 0.6	回転ナデ	回転ナデ	暗灰	灰
228	F11	SO1002	碗	黒色土器	雲母	底径 8.8 高台高 0.6	回転ナデ	回転ナデ	にぶい橙	褐灰
229	F11	SO1002	杯	土師質	石英 長石 雲母 片岩	口径 14.8 器高 2.9 底径 10.4	ナデ 底部回転ヘ ラ切り	ナデ	橙	にぶい橙
230	E9	SK1004	杯	土師質	石英 長石 雲母 片岩	底径 8.8	摩滅し不明	摩滅し不明	橙	橙
231	E9	SK1004	杯	土師質	雲母	底径 8.1	摩滅し不明	摩滅し不明	にぶい赤褐	にぶい赤褐
232	E9	SK1004	壺	須恵器		口径 9.5	口縁部~頸部ナデ	口縁部~頸部ナデ	黄灰	灰褐
233	I8	SP1141	碗	土師質	石英 長石 雲母 片岩	底径 7.6 高台高 0.6	回転ナデ	回転ナデ	にぶい橙	にぶい黄褐
234		包含層	鍋	土師質	石英 長石 片岩	口径 29.4	ナデ	ナデ	明褐	橙
235		包含層	土鐏	土師質	石英 長石 片岩	器高 3.8 最大径 1.2	摩滅し不明		灰白	

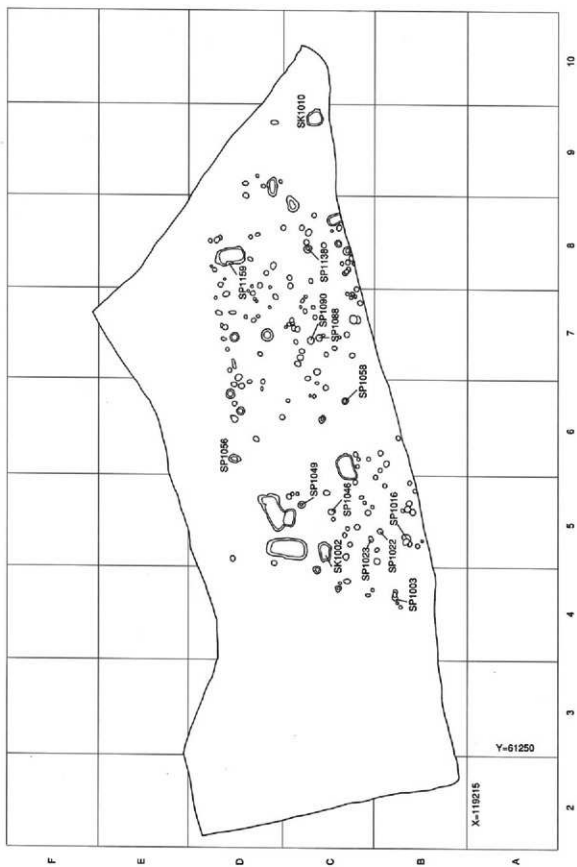
第7表 鶴射遺跡出土土器観察表

番号	グリッド	遺構	器種	石材	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	備 考
236		包含層	ナイフ形石器	サヌカイト	(57.8)	18.6	6.6	7.1	旧石器
237		包含層	スクレイパー	サヌカイト	68.0	21.8	5.5	13.6	旧石器

5 原遺跡(Ⅱ)



第57図 原遺跡(Ⅱ)調査地点 S=1/1000



第58圖 原遺跡Ⅰ 遺構配置図

(1) 調査の経過

①遺跡の位置

曾江谷川右岸標高90m前後の中段段丘の中央に位置する。吉野川沿岸の平坦部との比高差は約40mある。現況は水田・畑で、本来は南東に向かう緩傾斜の地形である。

1993年6月10日から8月3日まで試掘調査を行い、中世の遺物包含層が確認された。1993年9月1日から10月7日の間本調査を実施した。

②基本層序

第1層は耕作土、第2層は橙の床土、第3層はオリーブ褐色の砂質土、第4層は黄褐色の砂質土（この層の上面が遺構検出面である）、第5層も黄褐色の砂質土、第6層が地山となっている。調査区の北部及び南部は削平を受け、2層の直下が地山となっている。

③発掘調査の方法

調査を始めるにあたり、グリッドの配置は、発掘調査統一基準に倣い、第IV系国土座標を基準とし、1辺5mを1グリッドとして調査対象地を包み込む形で設定した。南西隅を基準とし、北にA～F、東に2～10の記号をふり、その組み合わせで各グリッドを表すこととした。

(2) 遺構と遺物

土坑

SK1002（第59図）

グリッドC5・D5に跨る。主軸方位N1°E。

長軸110cm短軸59cm深さ14cm。断面は東側で二段に彫られている。

出土遺物

238は土師質皿である。底部を回転ヘラ切りし底部内面には強い回転ナデが施されている。239は土師質甕の体部である。240は土師質捏ね鉢である。内面は横ナデが施され、内外面に煤が付着している。241は竈蓮弁文が施された灰白色の粘土の龍泉窯系青磁碗である。図化した以外に土師質土器細片が248g出土している。

SK1010（第60図）

グリッドC9。長軸94cm短軸84cm深さ13cm。主軸方位N19°W。

出土遺物

242は土師質鍋である。ほかに3個の砂岩が出土しているが、そのうちの245は、砥石として使用された後に半分に割れ熱を受け変色した状態で出土した。残りの半分は、柱穴SP1088より出土した。

柱穴

SP1003（第61図）

グリッドB4。長軸29cm短軸25cm深さ18cm。

出土遺物

246は須恵器蓋のつまみ部分である。

SP1016 (第62図)

グリッドB5。長軸42cm短軸24cm深さ33cm。

出土遺物

247は瓦質土器の体部である。

SP1022 (第63図)

グリッドB5。長軸35cm短軸30cm深さ28cm。

出土遺物

重さ8,150gの2辺を割られた砂岩248が、縦になった状態で出土した。

SP1023 (第64図)

グリッドC5。長軸30cm短軸24cm深さ22cm。

出土遺物

249は瓦質の釜である。内面は板状工具による横ナデが施されている。

SP1046 (第65図)

グリッドC5。SP1047に大半を切られているため軸長は不明である。

出土遺物

250は土師質の杯である。内外面ともに丁寧なナデを施し、底部はヘラ切り痕を強くナデですり消している。外面に炭化物が付着している。

SP1049 (第66図)

グリッドC5。長軸37cm短軸35cm深さ7cm。

出土遺物

251は土師質の杯である。ほぼ完形のまま出土した。表面はほとんど剥離しているが、全面にナデが施されている。

SP1056 (第67図)

グリッドD6。長軸66cm短軸46cm深さ19cm。

出土遺物

252は土師質の碗である。内外面ともなでて滑らかに仕上げられている。内面に炭化物が付着している。

SP1058 (第68図)

グリッドC6。長軸34cm短軸32cm深さ12cm。

出土遺物

253は土師質の杯である。表面の調整はほとんど剥離しているが内外面とも横ナデが施されている。

SP1088 (第69図)

グリッドC7。長軸33cm短軸34cm深さ42cm。

出土遺物

254はSK1010から出土した砂岩製砥石245の残り半分である。砥石として使用した後、二つに割れ、埋められたようである。

SP1090 (第70図)

グリッドC7。長軸36cm短軸32cm深さ23cm。

出土遺物

255は砥石として利用された後割れたため台石に転用され、その後根石として使われたと見られる。

SP1138 (第71図)

グリッドC8。長軸38cm短軸38cm深さ19cm。

出土遺物

256は土師質の碗である。257・258は土師質小皿である。共に内外面に回転ナデが施されている。

SP1159 (第72図)

グリッドDS。切合いにより軸長は不明。

出土遺物

259は土師質の杯である。外面の調整は剥離しているために不明である。内面には回転ナデが施されている。

包含層出土遺物 (第73～75図)

260～262は土師質の杯である。263は土師質の皿である。264は須恵器の甕である。265は土師器の羽釜である。266は器種不明の土師器である。底部ではない可能性がある。267は土師器鍋の脚である。

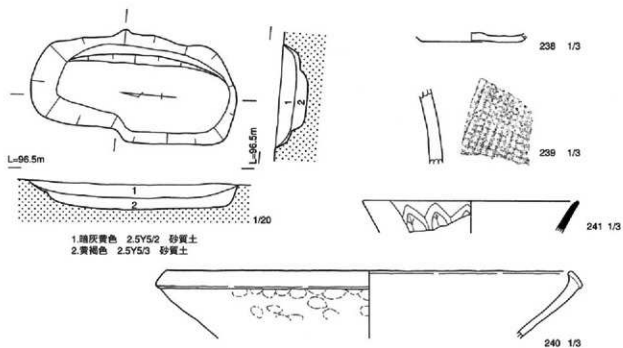
268・269は肥前系の染付磁器碗である。ともに見込みを蛇の目軸割ぎしてある。269はゴバルトを使用している。270・271は瀬戸美濃系の磁器碗と猪口である。270は染付、271は見込みに色絵が施されている。272は灰軸施軸後アフォルメされた海老を赤色で絵付けした陶器碗である。全体に貫入が見られる。胎土は灰白色。徳島県内の近世遺跡から多数出土する注連縄文茶碗である。273は波佐見産の染付磁器皿である。見込みは蛇の目軸割ぎされ、省略された菊唐草文を具須で描いている。274は胎土が灰白色の白磁碗である。口縁端部を面取りし、釉が剥がされている。

275・278は瓦質の釜である。276の外面と278の内外面には炭化物が付着している。275・278は型押し成形されている。277は穿孔された外耳を持つ。279はあざい緑みの青のアルカリ珪酸塩ガラス製の菓玉である。多数の気泡を内包する。280は須恵器の甕である。281は土師質の風炉の底部である。外面に型からの剥離剤として使用された砂が付着している。282は陶質無釉の轆轤成形された器の底部である。283は土師質角火鉢。284～288は焙烙である。284は貫通していない穴を持つ内耳を有し、外面に炭化物が付着。体部外面には繊維状の圧痕がある。285・286は筵状の圧痕と剥離剤が外面に残る。285は土師質。その他は瓦質である。289は堺明石系の播鉢である。

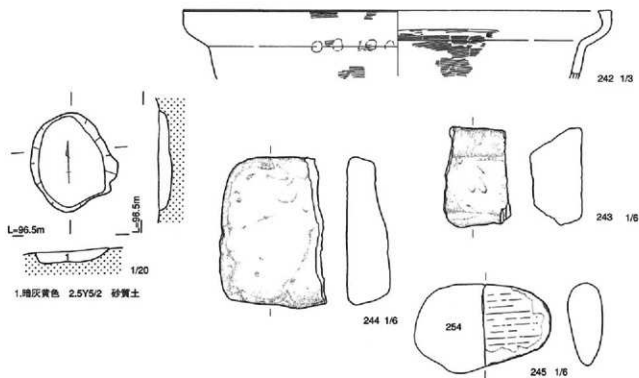
290～292はサヌカイト製の石鏃である。293は片岩製の石廬丁、294はサヌカイト製の石剣の基部であろう。295は砂岩製の砥石である。4面を使用している。

(3) まとめ

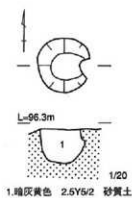
本遺跡の遺構から出土した遺物は、13世紀前後のものと考えられる。したがって本遺跡は鎌倉時代に存在したと考えられるが、包含層出土遺物からは、それ以降も連続と集落が存在した可能性もうかがえる。



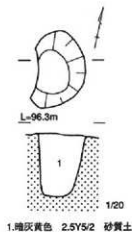
第59図 原遺跡Ⅱ SK1002 遺構図・出土遺物



第60図 原遺跡Ⅱ SK1010 遺構図・出土遺物



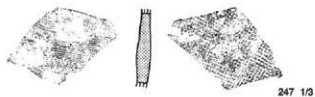
1. 赭灰黄色 2.5Y5/2 砂質土



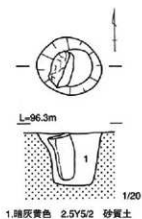
1. 赭灰黄色 2.5Y5/2 砂質土



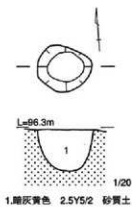
第61圖 原遺跡Ⅱ SP1003遺構圖・出土遺物



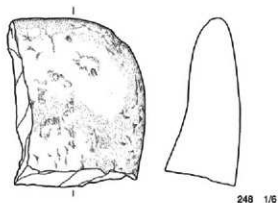
第62圖 原遺跡Ⅱ SP1016遺構圖・出土遺物



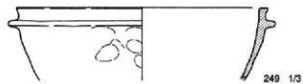
1. 赭灰黄色 2.5Y5/2 砂質土



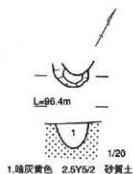
1. 赭灰黄色 2.5Y5/2 砂質土



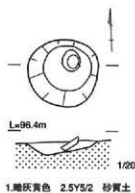
第63圖 原遺跡Ⅱ SP1022遺構圖・出土遺物



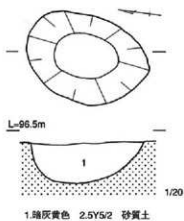
第64圖 原遺跡Ⅱ SP1023遺構圖・出土遺物



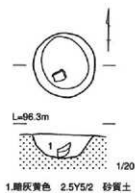
第65图 原遺跡Ⅱ SP1046遺構図・出土遺物



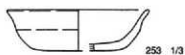
第66图 原遺跡Ⅱ SP1049遺構図・出土遺物

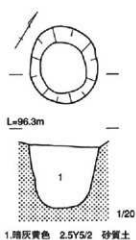


第67图 原遺跡Ⅱ SP1056遺構図・出土遺物

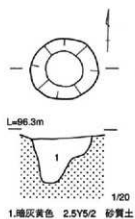


第68图 原遺跡Ⅱ SP1058遺構図・出土遺物

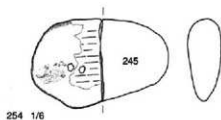




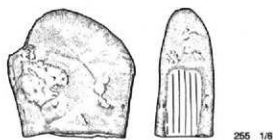
第69図 原遺跡Ⅱ SP1088遺構図・出土遺物



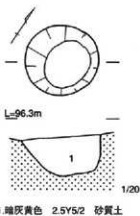
第70図 原遺跡Ⅱ SP1090遺構図・出土遺物



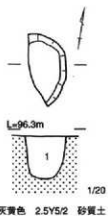
第71図 原遺跡Ⅱ SP1138遺構図・出土遺物



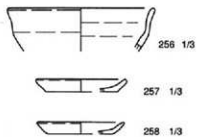
第72図 原遺跡Ⅱ SP1159遺構図・出土遺物

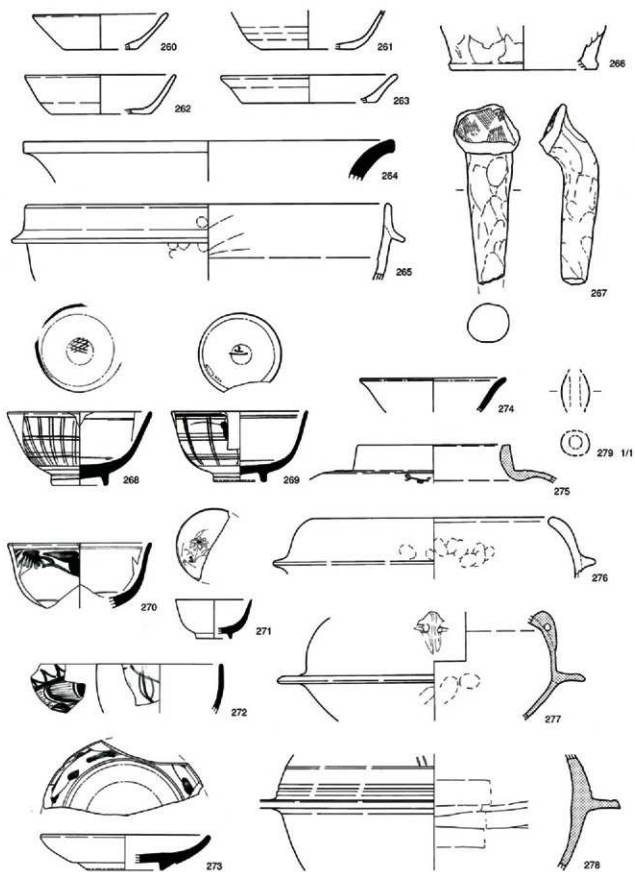


第71図 原遺跡Ⅱ SP1138遺構図・出土遺物

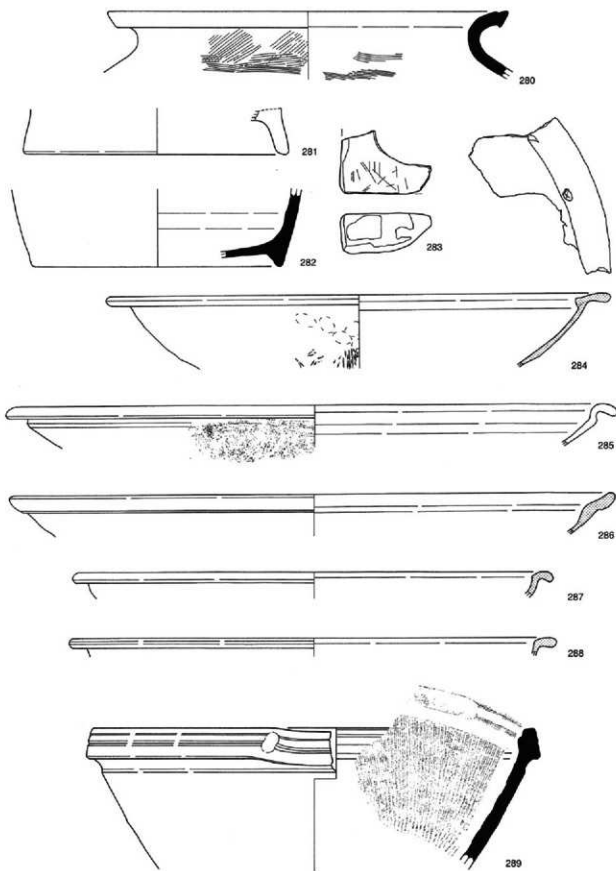


第72図 原遺跡Ⅱ SP1159遺構図・出土遺物

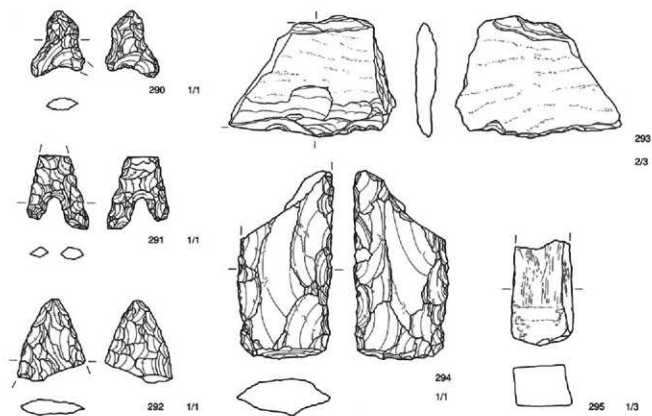




第73図 原遺跡(Ⅱ) 包含層出土遺物(1) 1/3



第74図 原遺跡Ⅱ 包含層出土遺物(2) 1/3



第75圖 原遺跡Ⅱ 包含層出土遺物 (3)

第8表 原遺跡(Ⅱ)出土土器観察表(1)

番号	グリッド	遺構	器種	材質	含有物組	法量(cm)	外面調整等	内面調整等	外面色調	内面色調
236	CD5	SK1002	皿	土師質	石英		回転ナデ			
239	CD5	SK1002	甕	土師質	石英 長石		格子目タタキ		黒褐	灰褐
240	CD5	SK1002	握ね鉢	土師質	石英 長石	口径 32.1	ユビオサエ後ナデ	ナデ	にぶい橙	にぶい橙
241	CD5	SK1002	大碗	磁器		口径 17.0	青磁軸線蓮弁文		グレイみの青	
242	C9	SK1010	鍋	土師質	石英 長石 雲母	口径 33.8 頸径 30.0	口縁部ユビオサエ後ナデ 体部ハケ9条/cm	口縁部ハケ7条/cm 口縁部ナデ 体部ハケ9条/cm	にぶい黄褐	灰黄褐
246	B4	SP1003	蓋	須恵器	石英 長石	つまみ径 2.8	回転ナデ		灰	灰白
247	B6	SP1016	壺	瓦質	石英 長石 雲母		タタキ後ナデ7条/cm	ハケ7条/cm	暗灰	暗灰
249	C5	SP1023	釜	瓦質	石英 長石 雲母	口径 19.9 最大径21.2	口縁部ナデ 体部ユビオサエ後ナデ	ナデ	青黒	青黒
250	C5	SP1046	杯	土師質	石英 長石 雲母	底径 7.9	回転ナデ	回転ナデ	にぶい橙	浅黄橙
251	C5	SP1049	杯	土師質	石英 長石	口径 11.1 器高 3.1 底径 7.0	回転ナデ	回転ナデ	にぶい橙	明褐灰
252	D6	SP1056	碗	土師質	石英 長石	口径 15.1	回転ナデ	回転ナデ	橙	にぶい橙
253	C6	SP1058	杯	土師質	石英 長石	口径 11.2 器高 3.3 底径 7.0	回転ナデ	回転ナデ	浅黄橙	浅黄橙
256	C8	SP1138	碗	土師質	石英 長石 雲母 片岩	口径 11.4	回転ナデ	回転ナデ	にぶい橙	にぶい橙
257	C8	SP1138	小皿	土師質	石英 長石 雲母 片岩	口径 6.9 器高 1.0 底径 5.6	回転ナデ	回転ナデ	にぶい橙	にぶい橙
258	C8	SP1138	小皿	土師質	石英 長石 片岩	口径 6.9 器高 1.0 底径 5.2	回転ナデ	回転ナデ	浅黄橙	浅黄橙
259	D8	SP1159	杯	土師質	石英 長石	口径 13.4	不明	回転ナデ	にぶい黄橙	浅黄橙
260		包含層	杯	土師質	石英 長石	口径 10.6 器高 2.8 底径 5.9	回転ナデ	回転ナデ	浅黄橙	橙
262		包含層	杯	土師質	石英 長石	口径 12.0 器高 3.1 底径 7.9	回転ナデ	回転ナデ	にぶい黄橙	浅黄橙
263		包含層	皿	土師質	石英 長石 角閃石	口径 14.0 器高 2.2 底径 10.5	回転ナデ	回転ナデ	灰白	灰白
264	B5	包含層	甕	須恵器	石英 長石	口径 29.3	ナデ	ナデ	灰	灰
265		包含層	羽釜	土師質	石英 長石	口径 29.1 最大径31.2	口縁部ナデ 体部ユビオサエ後ナデ	ケズリ幅15mm	にぶい橙	にぶい橙
266		包含層	不明	土師質	石英 長石	底径 11.4	ケズリ	ケズリ	橙	黒褐
267		包含層	鍋脚	土師質	石英 長石		ユビオサエ板ナデ	ハケ7条/cm	明黄褐	橙
268		包含層	中碗	磁器		口径 11.4 器高 5.8 底径 4.4 高台高 0.7	二重格子文	蛇の目輪割ぎ 見込み 斜格子文	文浅い グレイみの青	赤地黄みの白

第8表 原遺跡(Ⅱ)出土土器観察表(2)

番号	グリッド	遺構	器種	材質	含有物組	質量 (cm)	外面調整等	内面調整等	外面色調	内面色調
269		包含層	中碗	磁器		口径 10.7 器高 5.6 底径 4.0 高台高 0.7	コバルト染付 格子文様	口縁部二重 團縁 見込み 團縁内文 蛇の目輪割ぎ	にぶい青	素地 明るい青み のグレイ
270		包含層	中碗	磁器		口径 11.4	呉須染付	口縁部二重 團縁	絵こい青	
271		包含層	猪口	磁器		口径 6.0 器高 3.1 底径 2.8 高台高 0.4	畳付き無釉	口紅 見込み色絵 草花文	こい赤	胎土灰白
272		包含層	中碗	陶器		口径 9.8	灰釉 鉄絵	灰釉	鉄絵こい 赤みの オレンジ	
273		包含層	小皿	磁器		口径 13.1 器高 2.8 最大径13.4 底径 5.8 高台高 0.6	畳付き無釉 蕃節底	菊唐草文 五弁花 蛇の目輪割ぎ	あさい グレイみ の青	あさい グレイみ の青
274	B5	包含層	中碗	磁器		口径 11.4		口割	釉灰白	
275		包含層	釜	瓦質	石英	口径 12.0 頸径 12.8	口縁部ナデ	口縁端部 板ナデ 体部ナデ	灰	褐灰
276		包含層	羽釜	土師質	石英 長石	口径 19.0 最大径25.5	口縁部ユビ オサエ 後ナデ	口縁部ナデ 体部ユビオ サエ後ナデ	黒褐	灰白
277		包含層	羽釜	瓦質	石英 長石 雲母	最大径24.3	体部ユビオ サエ後ナデ	体部ユビオ サエ後ナデ	灰	黄灰
278		包含層	羽釜	瓦質	石英 長石 片岩	最大径29.4	体部ナデ 頸部板ナデ	体部板ナデ	灰	灰黄
280		包含層	甕	須恵器	石英 長石	口径 31.4	口縁部ナデ 頸部タタキ	口縁部ナデ 体部ハケ 7条/cm	青灰	青灰
281		包含層	風炉	土師質	石英 長石 雲母 片岩	底径 20.6	ナデ	ナデ	黒褐	灰黄褐
282		包含層	不明	陶器	長石	底径 19.4 高台高 1.0	回転ナデ	回転ナデ	浅黄橙	浅黄橙
283		包含層	角火鉢	土師質	石英 長石 雲母				褐灰	褐灰
284		包含層	焙烙	瓦質	石英 長石 雲母 角閃石	口径 39.0	口縁部ナデ 体部ユビオ サエ後ナデ・ 縦線状圧痕	口縁部ナデ・ 板ナデ	にぶい黄褐	暗灰黄
285		包含層	焙烙	土師質	石英 長石 雲母	口径 46.8	口縁部ナデ 体部蓮状 圧痕	口縁部ナデ・ 板ナデ	黒褐	黄灰
286		包含層	焙烙	瓦質	石英 長石 雲母 角閃石	口径 47.6	板ナデ	板ナデ	暗灰黄	黄灰
287		包含層	焙烙	瓦質	石英 長石 雲母	口径 37.0 最大径38.0	ナデ	板ナデ	黒褐	褐灰
288		包含層	焙烙	瓦質	石英 長石 雲母	口径 37.6	ナデ	ナデ	褐灰	にぶい黄橙
289		包含層	權鉢	陶器	石英 長石	口径 35.7	回転ナデ	節目9条密集	にぶい赤橙	赤

第9表 原遺跡(Ⅱ)出土石器・玉観察表

番号	グリッド	遺構	器種	石材	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	備 考
243	C9	SK1010	根石?	砂岩	158.0	(106.5)	82.3	2,110	
244	C9	SK1010	根石?	砂岩	241.5	(170.5)	68.1	4,300	
245	C9	SK1010	根石?	砂岩	130.1	107.5	52.9	1,190	254と接合
248	B5	SP1022	根石?	砂岩	(268.3)	(213.0)	119.8	8,150	
254	C7	SP1088	根石?	砂岩	141.1	108.8	52.9	910	245と接合
255	C7	SP1090	根石?	砂岩	(198.6)	203.3	93.5	5,650	
279		耕作土	膏玉	ガラス	(9.8)	7.5		0.25	
290		包含層	石鏃	サヌカイト	17.8	(14.2)	3.1	0.5	
291		包含層	石鏃	サヌカイト	(19.3)	16.1	3.2	0.9	先端欠損
292		包含層	石鏃	サヌカイト	(21.9)	(18.4)	4.1	1.5	基部欠損
293		包含層	石砲丁	結晶片岩	48.8	(66.1)	8.1	33.3	
294		包含層	石剣	サヌカイト	(49.2)	25.0	9.8	14.7	先端欠損
295		包含層	砥石	砂岩	(83.0)	47.5	33.1	200	4面使用

V 考 察

佐城遺跡(I)、原遺跡(II)出土玉状製品の材質について

佐城遺跡(Ⅰ)、原遺跡(Ⅱ)出土玉状製品の材質調査

1. はじめに

佐城遺跡(Ⅰ)、原遺跡(Ⅱ)から出土した玉状製品の蛍光エックス線分析法による材質調査を行ったので報告する。

試料名	出土遺跡	出土情報	備考
試料1	原(Ⅱ)遺跡	地山直上	水色
試料2	佐城(Ⅰ)遺跡	耕作土	暗赤色 半透明
瑪瑙勾玉(参考)	山田古墳群A	SM1003	赤褐色

表1 調査を行った試料一覧

2. 蛍光エックス線分析条件

(1) 分析装置

エネルギー分散型蛍光エックス線分析計SEA2010L(セイコーインスツルメンツ株式会社製)

(2) 測定条件

・照射径10mm 電流12~50uA 電圧50kV 測定時間100sec 有効時間 約70sec

(3) その他

- ・非破壊の定性分析とする。
- ・定量分析には条件が整わないので、含有量をだまかに表す。

3. 分析結果

検出した元素	試料1	試料2	瑪瑙製勾玉(参考)
ケイ素(Si)	◎	○	◎
カリウム(K)	◎	○	
カルシウム(Ca)	◎	・	
鉛(Pb)	・	◎	
銅(Cu)	○		・
亜鉛(Zn)	○	・	
鉄(Fe)	・	・	・
カドミウム(Cd)		・	
チタン(Ti)	・		
マグネシウム(Mg)			・
マンガン(Mn)	・	・	
結果	アルカリ珪酸塩ガラス (ソーダ石灰ガラス?)	鉛ガラス	ほぼSiO ₂

※ 含有量の目安は、◎(多)→○→・(少)とする。

4. まとめ

ガラス製品は、アルカリ珪酸塩ガラスと、鉛珪酸塩ガラスに大別される。アルカリ珪酸塩ガラスはカリガラスとソーダ石灰ガラスに細分化され、ソーダ石灰ガラスはアルミニウムの有無によって更に細分化される。鉛珪酸塩ガラスでは、バリウム含有の有無でも細分化されている。

試料1は、Si、K、Caを強く検出し、Pbの検出が微弱であることから、アルカリ珪酸塩ガラスである。NaやAlが検出下限以下であったので、それ以上に絞り込むことは出来ない。Kのピークは特徴的とするには至らず、Caがやや特徴的なピークを示すことからソーダ石灰ガラスの可能性を指摘しておく。カリガラスとソーダ石灰ガラスが盛行する時期はややずれがあるようだが、両者とも国内では弥生時代から存在し、地山直上から出土した試料1の組成はそのいずれとも大きく異なるものではない。

試料2は、色調や質感から瑪瑙製品との推定もあったが、肉眼観察や実体顕微鏡観察では、(1)半透明である、(2)資料内部に大小多数の気泡や黒色の不純物が確認される、(3)穿孔部の縁を面取りしている以外に表面研磨の痕跡が見られないことなどから、石製品ではなくガラス製品と考えられる。瑪瑙は、石英(化学式 SiO_2)の微細な結晶が塊になった玉髄が縞状になっているもので、赤い瑪瑙は、加熱などによって含有する鉄等が赤くなる、もしくは近年のものであれば多くは人工的に染色されたものである。県内では、板野郡上板町山田古墳群AのSM1003(6世紀後葉)から瑪瑙製の勾玉の出土が報告されている。比較資料としてこの勾玉について材質調査を行い、Siを顕著に検出したことから、 SiO_2 が主成分であることが確認できた。着色の要因と思われるFeやCu、Mgも検出し、瑪瑙であることに矛盾を生じない結果となった。

試料2は、蛍光エックス線分析でPbを非常に強く検出し、Si、Kなども検出したことから、鉛ガラスであると思われる。比較試料とした瑪瑙製品との差は明確である。他の検出元素は、Ca、Fe、Zn(亜鉛)、Sn(スズ)、Mn(マンガン)である。Mnは茶色(酸化条件)、Feは黄緑色(酸化条件)・青緑色(還元条件)の着色剤でもあり、Znはセレン赤の着色安定剤としても働くガラス主原料の一種である。いずれも極微量の検出で、それぞれの作用を目的として添加されたかどうかは不明である。赤ガラスは、Cu【銅赤】、Au(金)【金赤】、また鉛ガラスの着色剤とはならないが硫化カドミウム(CdS) + Se(セレン)【セレン赤】がある。各着色剤の使用を示す元素の検出強度はCd(カドミウム)が非常に弱く検出するも、それ以外はバックグラウンドの域を越えず、検出に至らない。

赤色の因子については、微量成分など組成の詳細な調査が必要となる。

参考図書・文献

由水常雄編『世界ガラス美術全集 5日本』求龍堂 1992年

肥塚隆保「化学組成から見た古代ガラス—日本・韓国・中国のガラスに関して—」『古代文化』第48巻8号 財団法人古代学協会 1996年

藤川智之「山田古墳群A」『四国縦貫自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告10』(徳島県埋蔵文化財センター 1994年)

图 版

図版33・34写真解説 (149・150ページ)

同じ石器の同面の写真が1ページに2つずつ並べて掲載してあるが、それぞれの写真は約60mmカメラを平行移動させて撮影してある。これらは右の写真は右目で、左の写真は左目で、同時に観察すると立体感を認識可能な立体写真である。その理由は、実際に立体物を見るときと同じ視差を脳が感じるからである。また、副次的な利点として2枚の写真を脳内で1枚に重ねることになるので、写真の解像度が上がる効果があり、より詳細に観察することができる。なお立体視未経験者は、2枚の写真と目の間に30cm四方程度の厚紙を立て、強制的に、右目は右の写真のみ、左目は左の写真のみを見る状態にすると立体視が容易になる。

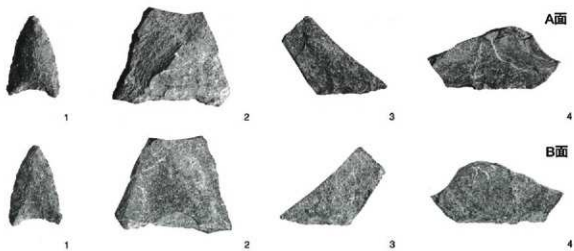
図版1 下突出遺跡



調査前



SK1001・SK1002



出土遺物 1/1

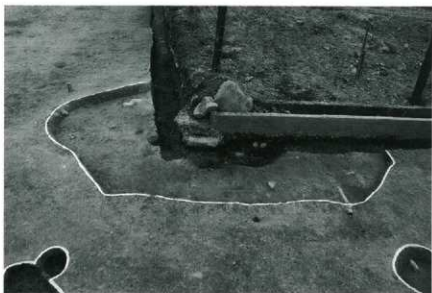
図版2 滝ノ宮遺跡



SK1002完掘状況

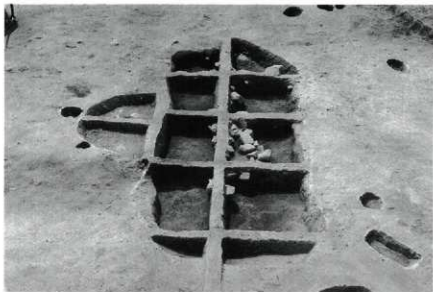


SK1004土層断面



SO1001完掘状況

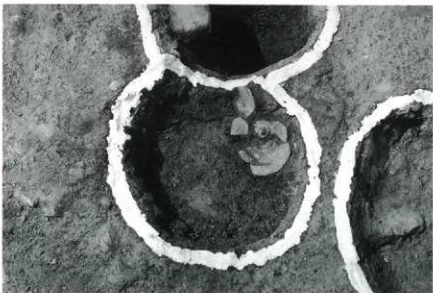
図版3 滝ノ宮遺跡



SO1002土層断面



SK1004遺物出土状況



SP1060遺物出土状況



7

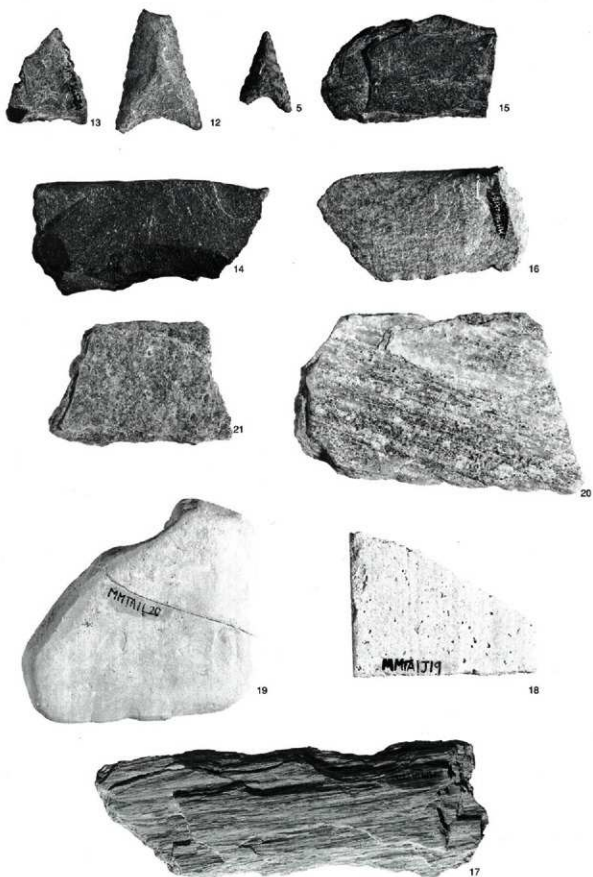


9

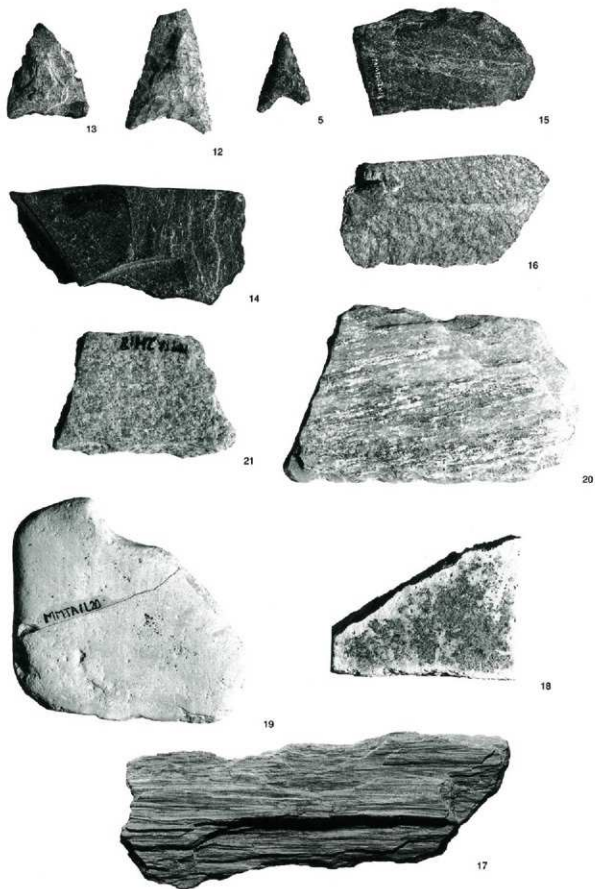


10

出土遺物 (1)



出土遺物(2) A面 1/1 (17を除く)



出土遺物 (2) B面 1/1 (17を除く)

圖版 7
佐城遺跡 (Ⅱ)



調査前



SK1003楔石検出状況



旧石器出土状況

SK1004楔石検出状況



32



33



40



65



40



66

出土遺物 (1)



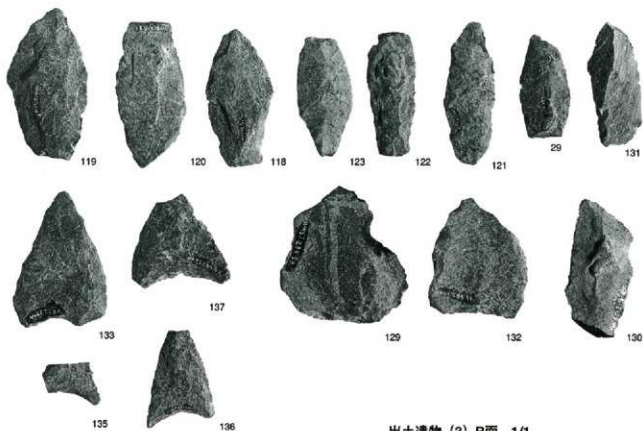
燧石刀核 80

出土遺物 (2)

図版10 佐城遺跡 (I)

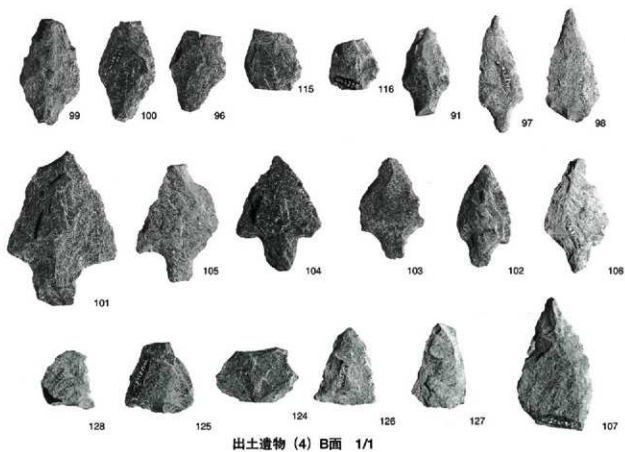
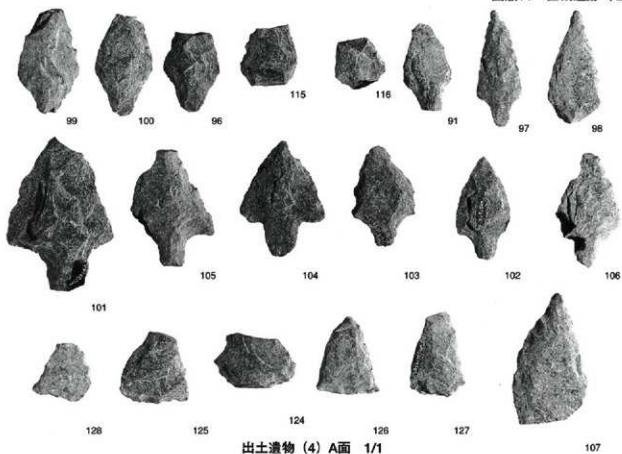


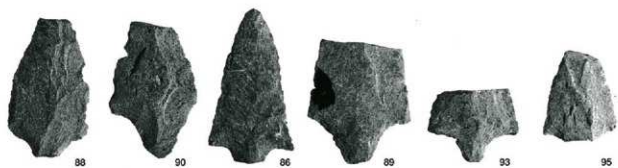
出土遺物 (3) A面 1/1



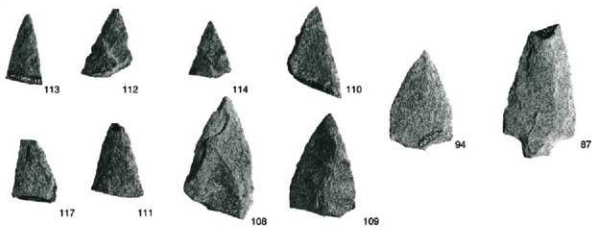
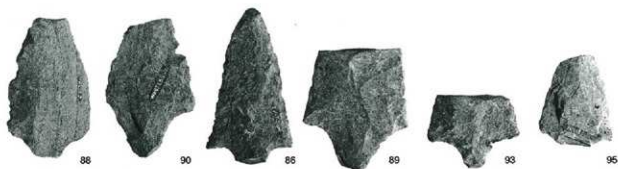
出土遺物 (3) B面 1/1

図版11 佐城遺跡 (Ⅱ)

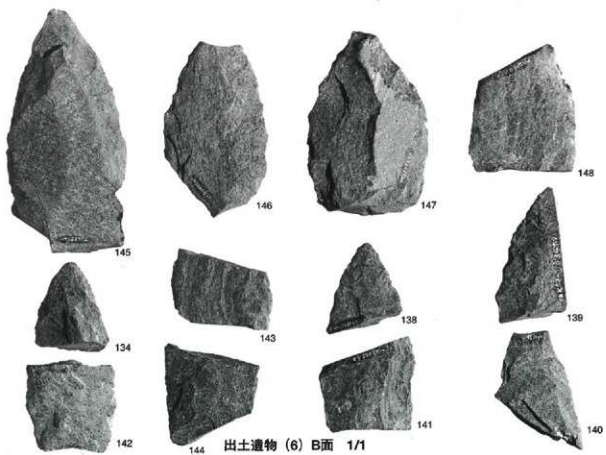
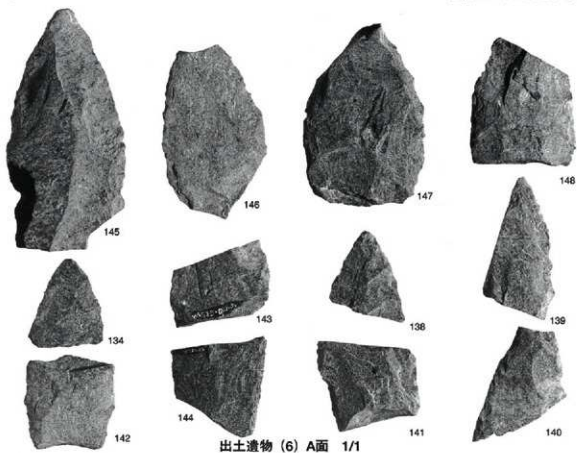


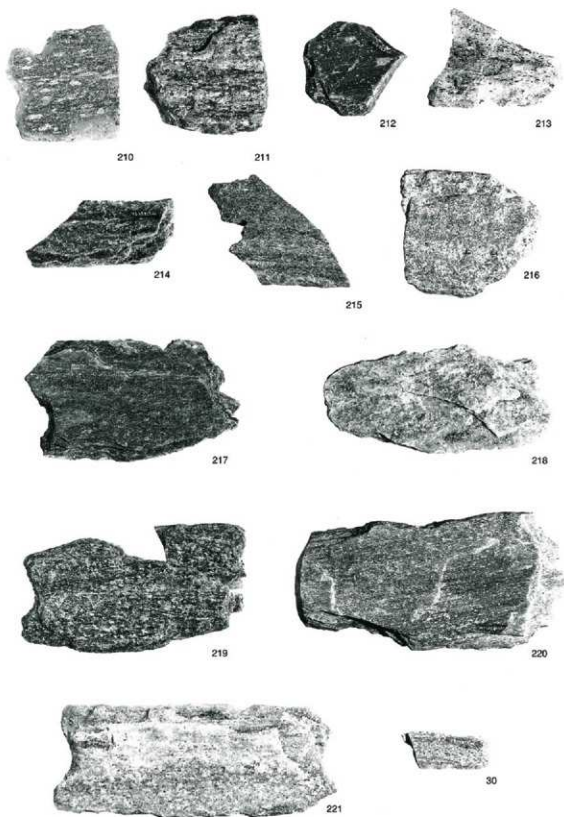


出土遺物 (5) A面 1/1

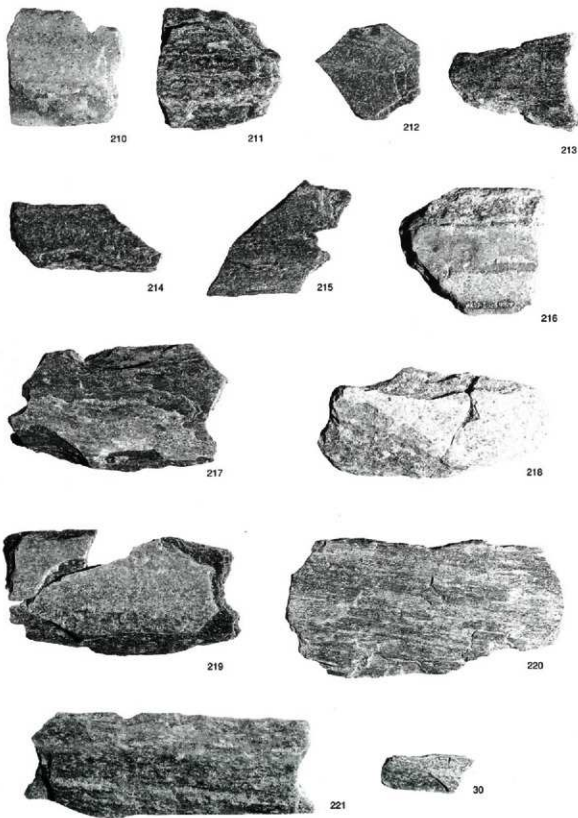


出土遺物 (5) B面 1/1

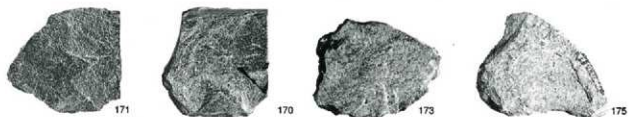
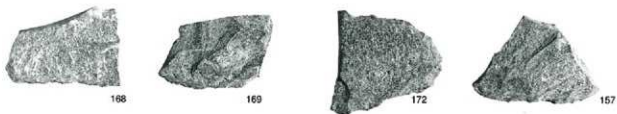
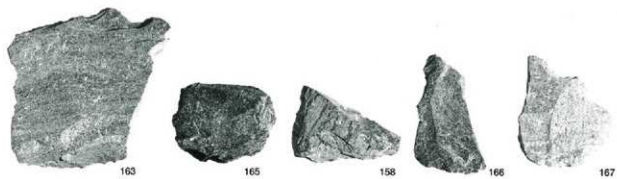
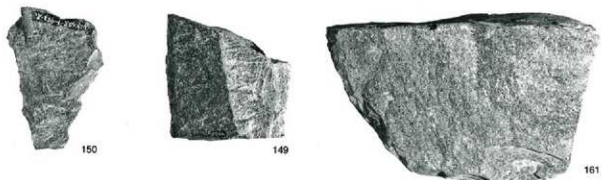
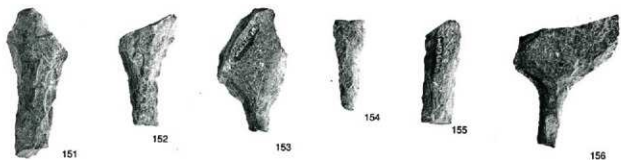




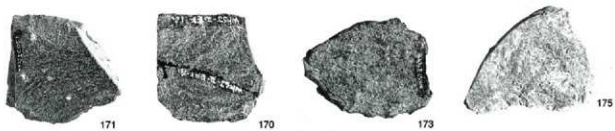
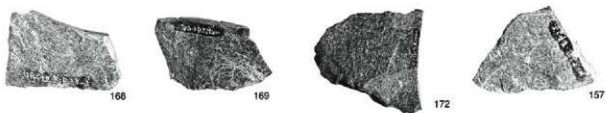
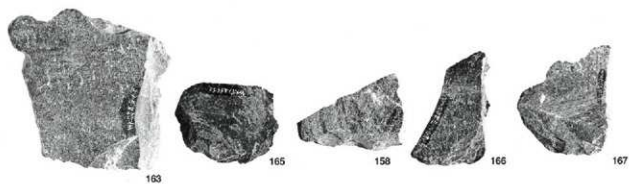
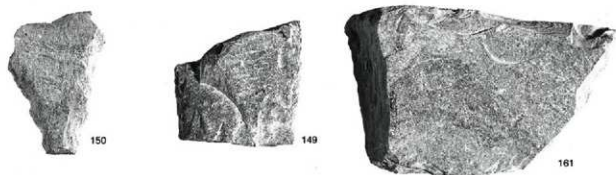
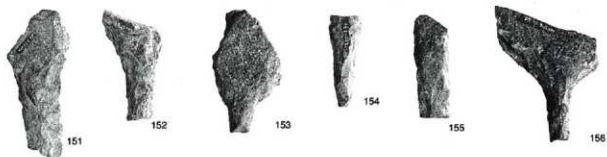
出土遺物 (7) A面



出土遺物 (7) B面



出土遺物 (B) A面 1/1



出土遺物 (8) B面 1/1



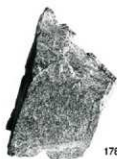
179



174



176



178



177



159



160



180



181



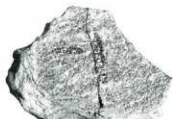
184



183



185



182



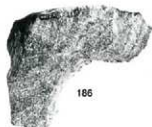
188



191



187



186

出土遺物 (9) A面 1/1



179



174



176



178



177



160



159



180



181



184



183



185



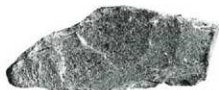
182



188



191



167

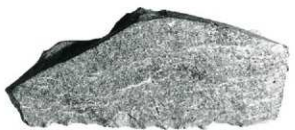


186

出土遺物 (9) B面 1/1



192



190



193



194



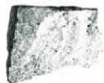
195



196



199



202



197



198



200



204



201

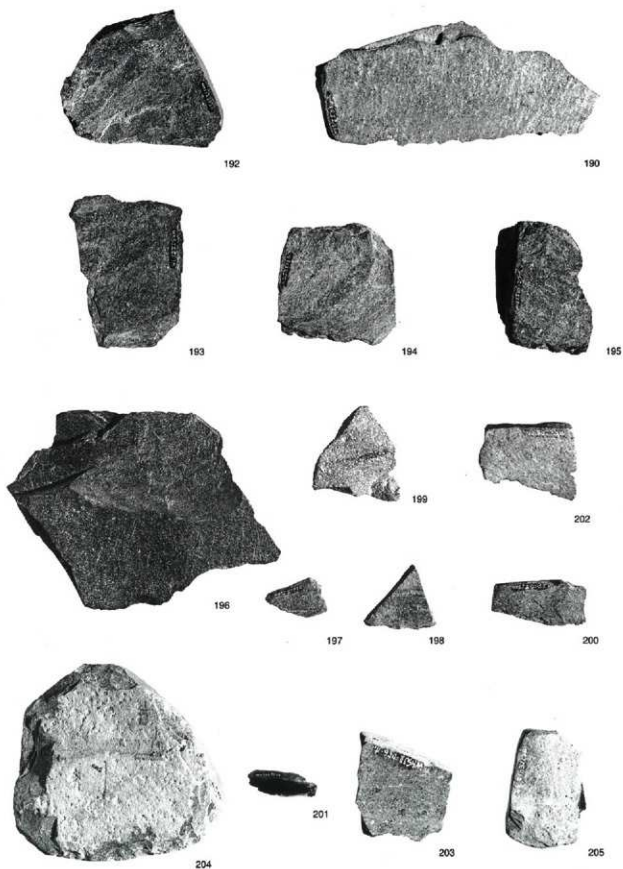


203



205

出土遺物 (10) A面 1/1



出土遺物 (10) B面 1/1



208



206



209



207

出土遺物 (11) A面 1/1



208



206



209



207

出土遺物 (11) B面 1/1

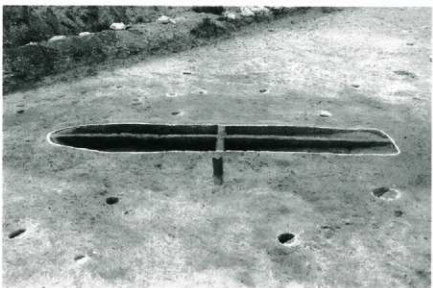
図版24 鶴射遺跡



北部遺構面
検出状況

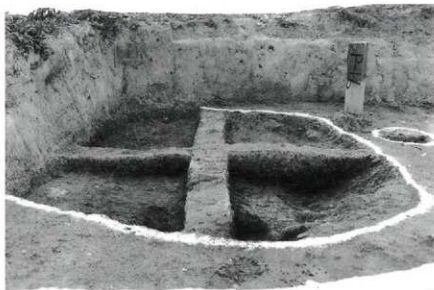


南部遺構面
検出状況



SO1001

图版25 鹤射遺跡



SO1002土層断面



旧石器出土状況



旧石器出土状況



232



227



223

出土遺物

図版27 原遺跡(Ⅱ)



調査前

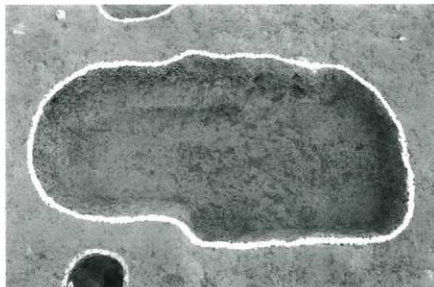


作業風景



SK1002土層断面

図版28 原遺跡 (I)



SK1002完掘状況



SK1004遺物出土状況



SP1049遺物出土状況



249



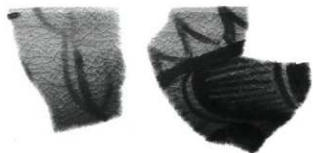
252



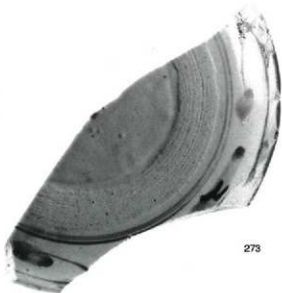
251



253



272



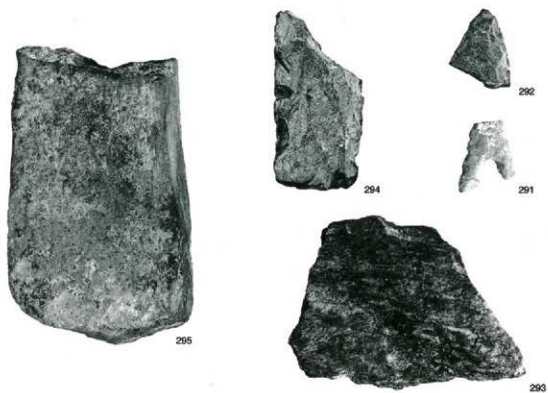
273

出土遺物 (1)

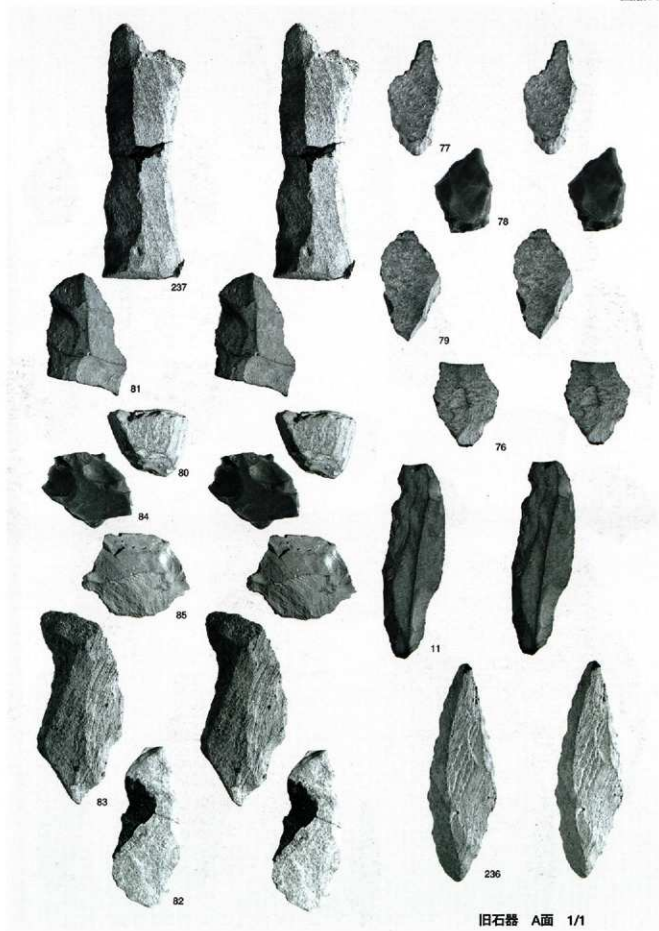
図版32 原遺跡 (I)



出土遺物 (4) A面 1/1



出土遺物 (4) B面 1/1



旧石器 A面 1/1

徳島県埋蔵文化財センター調査報告書 第41集

四国縦貫道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告21
試掘調査総括

下突出遺跡・滝ノ宮遺跡・佐城遺跡(Ⅱ)・鶴射遺跡・原遺跡(Ⅱ)

発行日 2002年3月31日

編 集 財団法人 徳島県埋蔵文化財センター
〒779-0108 徳島県板野郡板野町大伏字平山86番地の2
TEL (088) 672-4545

発 行 徳島県教育委員会
財団法人 徳島県埋蔵文化財センター
日本道路公団

印 刷 株式会社 芳川堂印刷所